



## 企業目的:

---

「私たちは、人とひととのふれあいを通して、お客様と『感動』を共有し、豊かな社会の実現に貢献します」

## 東京ドームグループが目指すもの:

---

東京ドームグループは、企業目的のもと、いつの時代にも他に先駆けて様々なレジャー施設とサービスを多くの人びとに提供してきました。これからも、お客様に心から楽しんでいただける都市型レジャーを追い求め続けることを社会的な使命ととらえ、レジャー・サービス業のリーディングカンパニーとして、限りなく前進していきます。

## 東京ドームシティの事業特性:

---

東京ドームグループの中核となる都市型レジャー施設、東京ドームシティには2つの事業特性があります。

### 1. 東京都心に立地する唯一性:

東京ドームシティは、東京ドームの前身である後樂園球場の頃より、東京都心の水道橋地区に立地。JR総武・中央線と地下鉄4路線(三田線・大江戸線・丸ノ内線・南北線)を利用でき、抜群のアクセスの良さを誇ります。

### 2. 相乗効果の発揮:

東京ドーム、ラクーア、東京ドームシティ アトラクションズ、東京ドームホテル、ミーツポートなど多種多様な施設をシティ内に集中させ、お客様の回遊性を高めて各施設の相互利用などの相乗効果をもたらします。

東京ドームシティは単なるレジャー施設の集合体ではありません。お客様と『感動』を共有するため、エンタテインメント性をより拡充する新たな施設の導入を図りながら、ひとつの「街」として常に成長しているのです。

東京ドームグループでは、コーポレート・ガバナンスの充実により、企業グループ全体の経営の透明性、健全性、効率性を高めていくことが、持続的な企業価値の向上のために不可欠であり、当社グループの重要な経営課題ととらえています。特に、株主のみならず、顧客、取引先、地域社会、従業員など各ステークホルダーと良好な関係を構築していくため適時・適切に情報を開示し、企業活動の透明性を確保していくことが重要と考えています。

## コーポレート・ガバナンス体制の特徴

### ■経営の仕組み

当社の取締役会は取締役9名で構成され、経営方針および業務執行を決定し、取締役および執行役員の職務の執行を監督する権限を有しています。なお、取締役9名のうち3名は専門性を有した経営監督機能の高い社外取締役です。

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保する体制の基礎として、常勤取締役全員によって構成される経営会議を設置しており、取締役会に付議すべき事項の決定ならびに取締役会の決議事項に基づく取締役社長の業務執行に必要な答申を行っています。

当社は2002年4月に、戦略的・機動的な意思決定と業務執行を目指して執行役員制度を導入しました。執行役員は、取締役会で選任され、取締役会の決定に基づき社長が委嘱する担当職務の執行責任者としての責任と権限を有し、業務を執行しています。また、執行役員全員によって構成される執行役員会を設置し、取締役会および経営会議の決議事項を伝達し、社長の業務執行に関する情報交換・連絡・調整の円滑化を図っています。なお、現場・現実に根ざした意思決定と監督を行うため、監督と執行の完全な分離は志向せず、常勤取締役が執行役員として業務執行を担当するとともに取締役会に参画する体制をとっています。

また、当社は監査役制度を採用しています。監査役会は、監査役5名で構成され、監査に関する重要な事項について報告を受け、協議を行い、または決議をしています。なお、監督機能を強化するため、監査役5名のうち3名は社外監査役です。各監査役は、監査役会が定めた監査の方針、業務の分担などに従い、取締役会およびその他の重要な会議に出席するほか、取締役などに営業の報告を求め、重要な決裁書類などを閲覧し、主要な事業所には自ら赴き業務および財産の状況を調査しています。

## 内部統制システムの構築

2006年7月27日に開催された取締役会において、「内部統制システム構築の基本方針」について決議し、これに基づき以下の内部統制システムを整備・運用しています。

### ■コンプライアンス体制の推進

当社は、各ステークホルダーとの強い信頼関係を築くべく、全社的視点からコンプライアンスを推進するため、代表取締役社長（以下「社長」）を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、役員・従業員を含めた倫理指針である「コンプライアンス行動規範」を制定して、遵守しています。

さらに、従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保する体制として、内部監査の主管部署である審査法務部が、各部署の業務遂行状況を合法性と合理性の観点から検討・評価し、改善・合理化への助言・提案なども含めて、その結果を社長、監査役および被監査部署長に報告しています。また、審査法務部は会計監査人から定期的なヒアリング（原則として年2回）を受けるなど、情報共有と相互連携に努めています。

### ■リスク管理への取り組み

リスク管理を体系的に定める「リスク管理規定」を制定するとともに、これに基づいて、経営に重大な影響を与えるリスクをトータルに認識して対応するために、社長を委員長とする「リスク管理委員会」を設置しています。

「リスク管理委員会」のもとには、防災対策を統制する「防災小委員会」、顧客の安全管理を統制する「安全管理小委員会」、情報の適時開示と情報全般の管理を統制する「情報管理小委員会」、周辺環境対策などを統制する「環境対策小委員会」、財務報告の信頼性確保を統制する「財務報告小委員会」を設置し、各小委員会はそれぞれの担当分野におけるリスクマネジメントを実施しています。

「リスク管理委員会」は各小委員会の活動状況のほか、各部署および各子会社におけるリスク管理の状況の報告を受けるなどしてグループ全体のリスクの状況をレビューし、その結果を定期的に、または必要に応じ随時、取締役会および監査役に報告しています。また、リスク管理委員会は、リスク管理全般を円滑かつ効率的に実施するための個別規定やマニュアルなどを整備しています。

## ■危機管理体制の整備

不測の事態（危機）が発生した場合には、社長を本部長とする対策本部を設置して迅速に対応し、損害の拡大を防いでこれを最小限にとどめる体制を整えています。

## ■取締役および使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制

### (1)取締役会等重要な会議への出席

監査役・監査役会が必要に応じて取締役等に問題提起できるよう、監査役は取締役会に出席するほか、常勤監査役は経営会議、執行役員会、リスク管理委員会およびコンプライアンス委員会等に出席し、その他の重要な会議に出席できるようになっています。

### (2)重要書類の回付

常勤監査役には稟議書その他の重要書類が回付されており、監査役からの要請があれば直ちに関係書類・資料等が提出されるようになっています。

### (3)代表取締役、取締役、執行役員（以下「代表取締役等」という）からの報告

代表取締役等は、コンプライアンス上問題のある事項、法令・定款に違反するおそれのある事項および当社に著しい損害を及ぼすおそれのある事項等が発生した場合は、これらを直ちに監査役・監査役会に報告することになっています。また、取締役は、グループ会社において、コンプライアンス上問題のある事項、法令・定款に違反するおそれのある事項および当社に著しい損害を及ぼすおそれのある事項を発見した場合には、監査役およびコンプライアンス委員会に報告すること

なっています。これに対し、グループ会社が、当社からの経営管理、経営指導内容が法令・定款に違反したり、コンプライアンス上問題があると認めた場合には、コンプライアンス委員会に報告し、コンプライアンス委員会事務局は直ちに監査役に報告することになっています。以上のほか、監査役はいつでも必要に応じて、取締役および使用人に対して報告を求めることができますようになっています。

## 役員報酬の内容の決定

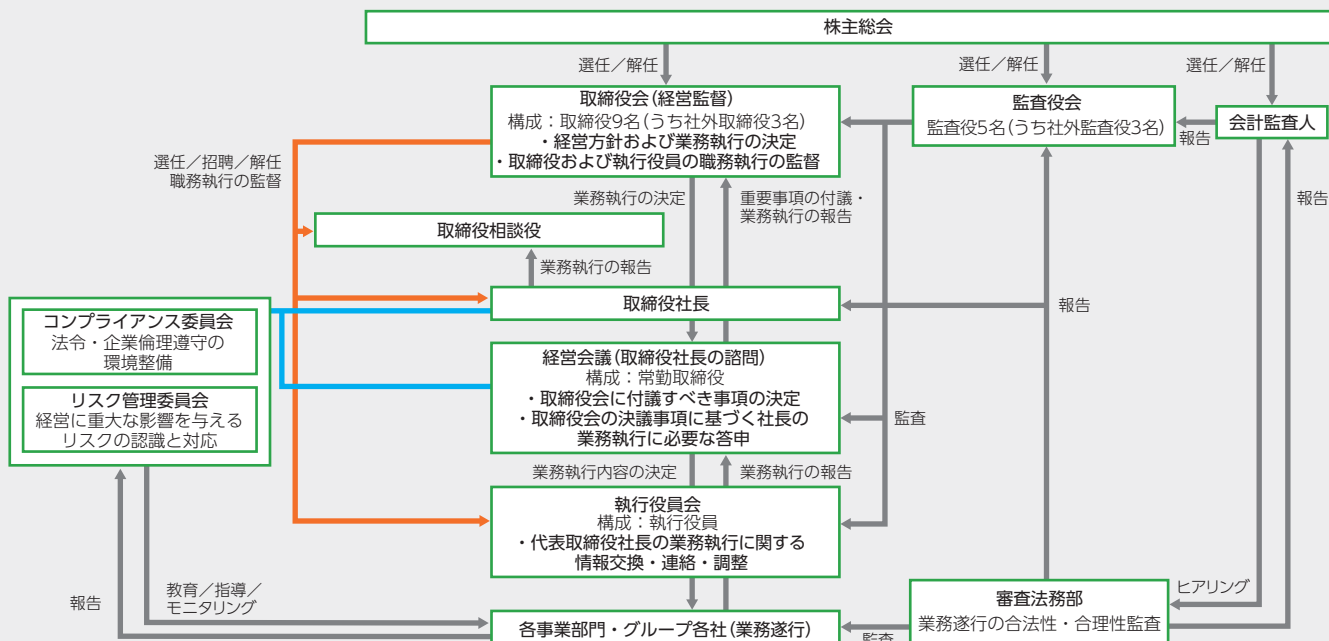
当社は役員の報酬等の額の決定に関する方針を定めており、その内容は2008年4月25日開催の第98回定時株主総会において、取締役の報酬額を、使用人兼務取締役の使用人分の給与は含まないものとして年額400百万円以内（うち社外取締役分は年額30百万円以内）、監査役の報酬額を年額80百万円以内として承認されています。

第102期（2012年1月期）における当社の取締役および監査役に対する報酬等の総額は以下のとおりです。

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 取締役10名 | 238百万円<br>(うち社外取締役3名:12百万円) |
| 監査役5名  | 58百万円<br>(うち社外監査役3名:12百万円)  |

注) 2012年1月期末の人員数は、取締役9名・監査役5名であり、上記の支給人員数との相違は、取締役1名の退任によるものです。

## 東京ドームグループのコーポレート・ガバナンス体制（2012年4月26日現在）



## 「安全文化」の確立に向けた、 総合的・抜本的な安全対策への取り組み

2011年1月30日の「スピニングコースター舞姫」の事故では、お客様の尊い命が失われるというあってはならない事態となりました。その後、約4カ月間に及び東京ドームシティ アトラクションズの休業期間を含めた1年あまり、当社グループが取り組んだ安全対策についてご説明いたします。

2011年には東日本大震災をはじめ、多くの自然災害がありました。被災されたみなさまには、改めて心よりお見舞いを申し上げます。

さて、当社グループにとっての2011年は、何と言いましても同年1月30日の「スピニングコースター舞姫」事故後の対応が最大の課題となり、事故原因の究明や安全対策に全力を注いでまいりました。

まず、「舞姫事故調査委員会」を中心に事故原因の徹底的な分析・解明を進め、同年4月28日には「事故調査報告書」を公表いたしました。

次に、総合的・抜本的な安全対策の確立に向けた取り組みとして、①各アトラクションが依拠すべき安全基準の策定、②安全基準に基づく遊戯施設運行管理規定、オペレーションマニュアルの整備、③安全基準に基づく施設面の整備、④社内教育体制の整備とオペレーションマニュアル厳守の徹底、⑤安全対策の履行状況全体に対する適切なモニタリングシステムの整備、⑥安全の確保を最優先とするにふさわしい組織と人員配置の追求、の6つの観点から、従来のシステムを全面的に見直しました。

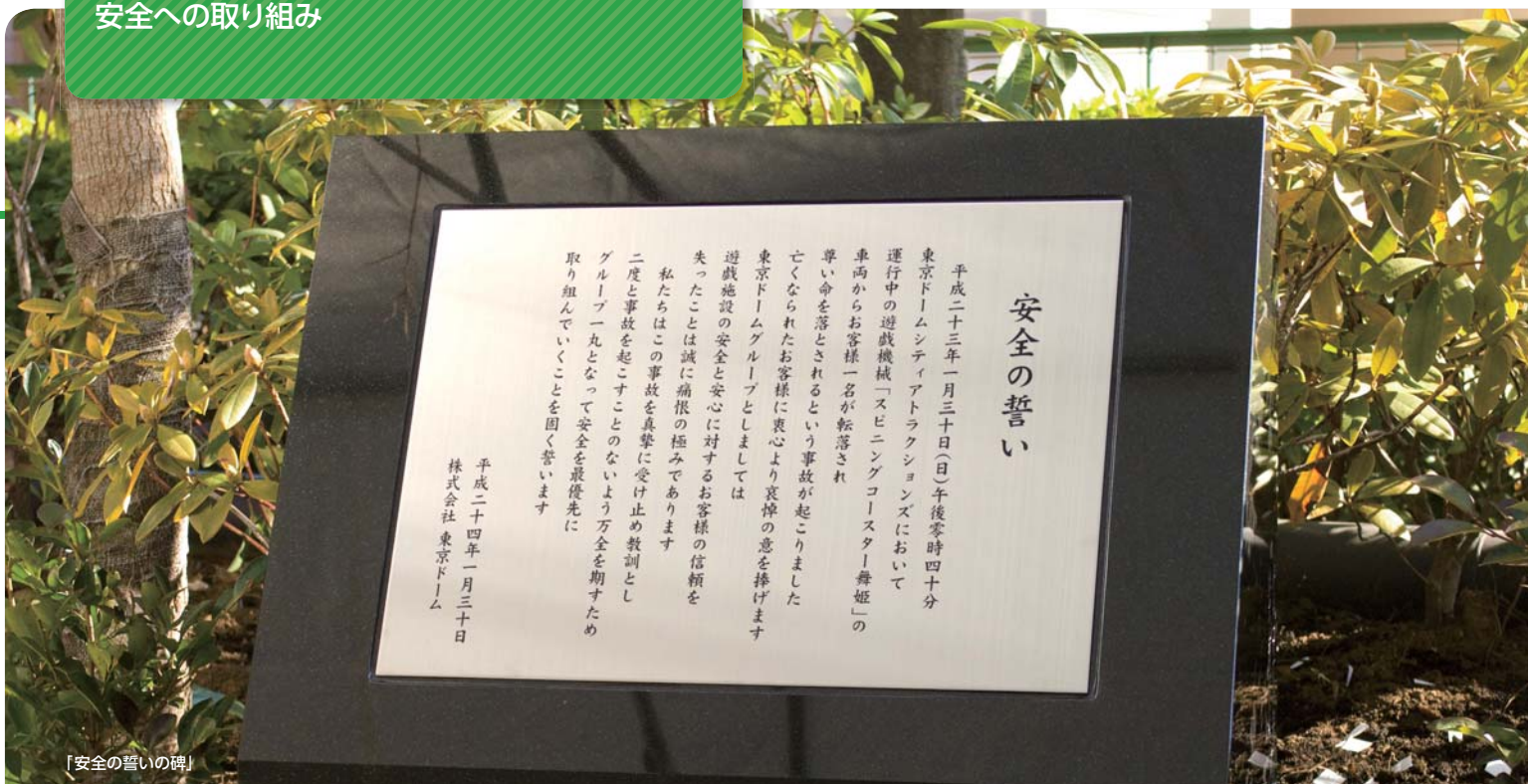
また、「安全理念」「安全基本方針」の決定や、外部の安全における専門家など、第三者による客観的な視点を採り入れながらまとめた「アトラクションズ総合安全基準」の策定などを行ってまいりました。

今後も、社内教育などを通じて、安全確保に対する強い気持ちを持ち続ける「安全文化」を築き上げ、東京ドームシティのみならず、当社グループのすべての事業において、お客様に安心して楽しんでいただき、ご家族・ご友人同士の絆を深めていただく場であり続けられるよう、役員・従業員・スタッフ一同、一層の努力をしております。

2012年5月

代表取締役社長 執行役員

久代 信次



「安全の誓いの碑」

東京ドームグループでは、「安全こそが当社グループの存立基盤である」ことを強く認識し続けるため、2011年4月21日に「安全理念・安全基本方針」を制定・施行いたしました。

## 1. 「安全理念」と「安全基本方針」

### ■安全理念

東京ドームグループは、お客様と「感動」を共有するために、安全を第一に考え、行動します

### ■安全基本方針

- 安全で楽しい施設とサービスの提供を追求し続けます
- 安全について私たち自身で基準を設定し遵守します
- 安全のための教育訓練に積極的に取り組みます

私どもは、この「安全理念・安全基本方針」のもと、常に日々新たな気持ちで「安全文化」を築き上げるための努力を継続してまいります。



2012年1月30日に執り行った「安全の日」式典

## 2. 「安全の誓いの碑」建立

安全に対する思いを日々新たにするための象徴として、2012年1月30日、東京ドームシティ内に、「安全の誓いの碑」を建立いたしました。

各事業所や各施設のスタッフが安全に対する意識の確認のため、また新たなスタッフが加わる際の教育の一環としてこの場所に訪れています。

## 3. 「安全の日」と「安全週間」

東京ドームグループは、毎年1月30日を「安全の日」と制定いたしました。

これは、東京ドームグループで働く全スタッフが、「安全理念・安全基本方針」のもと、各事



2012年の「安全週間」：  
安全統括管理者による安全巡視

業所や各施設での安全に対する強い意識を新たにする日で、「安全の誓いの碑」前では式典も執り行います。

また、1月30日から2月5日までの1週間を「安全週間」とし、各事業所や各施設における安全の総合点検、安全統括管理者(株式会社東京ドーム 代表取締役社長)による事業所の安全巡視を行います。

#### 4. 「安全教育室」の設置

東京ドームシティ アトラクションズを運営するアミューズメント部の事務所内に、2012年1月30日、「安全教育室」を設置いたしました。

ここでは、2011年1月30日にお客様死亡事故が起こった「スピニングコースター舞姫」の車両の一部や、当該事故の概要などのパネルを展示しており、事故の風化を防ぐとともに、安全文化の醸成と安全意識の向上のために、社員・アルバイトの安全教育的場として活用しています。



安全教育室

#### 5. 東京ドームシティ アトラクションズの安全への取り組み

2011年6月1日に東京ドームシティ アトラクションズの営業を再開するにあたり、以下の安全対策を確立し、実施しています。

##### (1) 各アトラクションが依拠すべき安全基準の策定

###### ■ 総合安全基準

1. アトラクション機器、施設設備に関わるリスクを網羅的に洗い出し、適切な対策を実施すること
2. アトラクション機器、施設設備の安全性を維持するために、十分な点検、検査、修繕等を実施すること
3. お客様に安全にご利用いただくための補助、確認、情報案内・掲示を確実に行うこと
4. 緊急時にお客様に安全に退避してもらう手段を確立すること
5. 従業員は、施設内で危険を察知した際は、躊躇せず安全を第一に考えた行動を取ること
6. 継続的な教育・訓練によって、従業員の安全に関する意識、知識、能力の向上を図り、社内に安全文化を定着すること
7. 上記1.から6.の事項が適切に実施されていることを常にモニタリングし、絶え間なく安全性の維持・向上に努めること

##### (2) 安全基準に基づく遊戯施設運行管理規程、オペレーションマニュアルの整備

##### (3) 安全基準に基づく施設面の整備等

##### (4) 社内教育体制の整備とオペレーションマニュアル厳守の徹底

##### (5) 安全対策の履行状況全体に対する適切なモニタリングシステムの整備

##### (6) 安全の確保を最優先とするにふさわしい組織と人員配置の追求



教育室での教育風景

#### 6. 全社的な安全への取り組み

2011年6月1日に、東京ドームグループにおける、お客様および役職員に対する総合的な安全管理体制構築の推進を所轄する部署として、株式会社東京ドーム代表取締役社長直轄の安全推進室を設置いたしました。

また、社長が安全統括管理者に就任し、経営において安全面を重視して判断する責任を負うことといたしました。

安全推進室は、年次総合安全計画の策定、総合安全活動に関する企画立案、総合安全活動の推進、安全監査、年次総合安全報告書の策定などを担当し、安全確保の施策全般をスパイラルアップさせていくためのPDCAサイクルの仕組みを作り、機能・維持していきます。

東京ドームグループでは、経営理念である「私たちは、人とひととのふれあいを通して、お客様と『感動』を共有し、豊かな社会の実現に貢献します」を念頭に置いたCSRに積極的に取り組んでいます。

## 東京ドームシティにおける環境対策と地域社会への貢献

東京ドームシティでは、東京ドームをはじめとしてエネルギー消費量の大きな施設を保有することから、とりわけ環境対策には力を注いでおり、地域冷暖房・NAS電池（ナトリウム・硫黄電池）などの各種環境対策システムの導入をいち早く実現しています。

また、東日本大震災以降の電力不足対策として、常設の自家用発電機を導入するほか、東京都心という立地特性を考慮して、周辺住民の方々および地域社会への貢献にも取り組んでいます。

### ■東京ドームシティの各施設における環境対策

#### (1) 雨水再利用中水道システム

導入施設：東京ドーム、ミーツポート

屋根に降った雨や、厨房などの雑排水を貯水槽に貯めて処理し、トイレ用水として再利用しています。水道水の節約とともに、下水に流れ込む雨水も減らすため、洪水の防止にも貢献します。

#### (2) 地域冷暖房システム

導入施設：東京ドームホテル、黄色いビル、青いビル

下水の廃熱を利用して冷水・温水をまとめて作り、パイプで各施設に送って冷暖房を行います。下水熱の有効利用で化石燃料の使用量を減らし、CO<sub>2</sub>排出量を削減します。

#### (3) 氷蓄熱システム

導入施設：東京ドームホテル、ラクア

深夜の電力を利用して氷をつくり、昼間に溶かして冷房に使用します。電力は主に昼間に消費されるので、深夜の利用は電力会社の設備の負担を減らします。

#### (4) NAS電池システム

導入施設：ラクア

充電できるNAS電池（ナトリウム・硫黄電池）に、夜間に電力を蓄えて昼間に使用します。大量の電力を貯められるため、停電時でも施設に電力供給が可能です。

#### (5) 周辺緑化

導入施設：ミーツポート

東京都の定める「都市計画公園・緑地の整備方針」に基づき可能な限り緑化しています。樹種は人工地盤上でも生育可能な丈夫なものを選定し、床は透水・保水性のあるインターロックを使用して樹木の根の育成に配慮しています。

### ■常設の自家用発電機を導入

東日本大震災以降の不安定な電力事情への対応策として、都市ガスを利用する常設の自家用発電機を導入し、2012年5月に運用を開始しました。これにより、イベントなどの開催における電力供給の安定性向上を図るとともに、夏期の節電など、社会的に電力需給対策が求められる状況にも柔軟に対応できるようになります。

### ■地域社会への貢献

東京ドームシティ周辺における定期的な美化活動や文化事業の支援、さらには東京ドームシティの営業施設へ地域在住の障害者・高齢者の方々をご招待するなど、幅広い取り組みを続けています。

#### (1) 地域の美化活動

グループ各社の社員が黄色のベストを着用し、「クリーンレンジャー」として、毎月第3週の平日に東京ドームシティ周辺を清掃しています。



ラクアのNAS電池システム



常設の自家用発電機



「都心の緑化スペース」ミーツポート

## (2)文化事業への貢献

野球体育博物館は、1959年に日本初の野球専門博物館として後楽園球場（当時）に隣接する場所に開館しました。1988年の東京ドーム完成に伴い、東京ドーム21番ゲート横に移転しています。東京ドームグ

ープでは、文化事業への支援として同博物館に展示・研究スペースを無償提供し、プロ・アマ双方における日本野球界の歴史の理解と、今後のさらなる発展に貢献しています。



東京ドームホテル、ラクーアの氷蓄熱システム

## 小委員会における取り組み

東京ドームグループでは、経営に重大な影響を与えるリスクに対応する「リスク管理委員会」および、その下部組織として「環境対策小委員会」「情報管理小委員会」「安全管理小委員会」「防災小委員会」「財務報告小委員会」という5つの小委員会を設置しています。これら小委員会におけるCSRへの取り組みから、主要なものをご紹介します。

### ■環境対策小委員会の主な取り組み

#### (1)夏期の節電への取り組みによる温暖化対策の実施

- ・各エリアでの省エネルギーパトロールの強化により、最低限の電力量での運用を実現しました。
- ・東京ドームでのイベント開催時にレンタル発電機を効率的に運用し、最大使用電力削減を実現しました。
- ・使用電力量日報をイントラネットに掲載し、一定の抑制効果を得ました。2011年7～9月のCO<sub>2</sub>排出量は前年度の約94百トンから、約74百トンに減少しました。

#### (2)改修工事などによる温暖化対策の実施

- ・改修工事および機器の老朽化による更新作業を、省エネルギー効果を考慮に入れて実施しました。

例)「黄色いビル」の中央監視装置の更新時に新型の制御装置を導入

### ■防災小委員会の主な取り組み

2011年3月に発生した東日本大震災を受けて、「防災小委員会」では、巨大地震への対策を中心とした様々な取り組みを実施中です。

#### (1)防災に関する社員教育の実施

防災体験訓練などの実施で、社員に地震時の対応を教育します。防災体験訓練、防災対策講座、防災講演会などを行いました。

#### (2)総合防災訓練および自衛消防隊の訓練などの実施

防災に対する意識向上と、非常時における技能習得や行動ができるように訓練します。東京ドームシティ総合防災訓練、自衛消防隊の訓練などを実施しました。

#### (3)AED講習の実施

ご来場のお客様が心肺停止となった場合に対処します。2012年1月末時点で、東京ドームシティ内に配置したAED (Automated External Defibrillator: 自動体外式除細動器) は36台、救命講習を受けた普通救命資格者は551名 (延べ人数) です。

#### (4)地震関連マニュアルの充実

「地震対策アクションプラン」「帰宅困難者発生時の対応方針策定」「緊急地震速報に関するガイドライン策定」など、地震関連マニュアル類の整備を行いました。



財団法人野球体育博物館（文化事業）への展示スペースの無償提供（野球体育博物館）

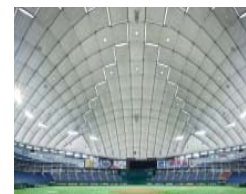


地域の美化活動（東京ドームシティ周辺の美化活動）

|  |    |
|--|----|
| 経営理念および東京ドームシティの事業特性<br>東京ドームグループのコーポレート・ガバナンス<br>トップメッセージ:安全と安心の確立に向けた取り組み                    | 1  |
| 安全への取り組み   | 2  |
| 東京ドームグループでは、「安全こそが当社グループの存立基盤である」ことを強く認識し続けるため、2011年4月21日に「安全理念・安全基本方針」を制定・施行いたしました。           |    |
| CSRへの取り組み  | 4  |
| 東京ドームグループでは、経営理念である「私たちは、人とひととのふれあいを通じて、お客様と『感動』を共有し、豊かな社会の実現に貢献します」を念頭に置いたCSRに積極的に取り組んでいます。   |    |
| 目次   | 6  |
| 社長インタビュー:株主・投資家およびステークホルダーのみなさまへ   | 8  |
| 「安全文化」のグループ全社への浸透と、<br>「全員野球」による一層の企業価値の向上に努めます。<br>厳しい経営環境をグループ全社で乗り切り、中期経営計画「起動」を強力に推進しています。 |    |
| 役員紹介   | 10 |
| 事業紹介:  | 11 |
| 東京ドームシティ事業   | 14 |
| 東京ドーム  | 15 |
| 飲食&物販  | 16 |
| ラクーア   | 17 |
| 東京ドームシティ アトラクションズ  | 18 |
| 黄色いビル  | 20 |
| TOKYO DOME CITY HALL (旧JCB HALL) /<br>後楽園ホール/プリズムホール   | 21 |
| 東京ドームホテル   | 22 |
| 東京ドームシティのその他の営業施設  | 24 |



8



15



16



17



18



20

|                            |    |
|----------------------------|----|
| <b>流通事業</b>                |    |
| ショッピング                     | 26 |
| <b>不動産事業</b>               |    |
| アドホック新宿・プチモールニツ木など         | 27 |
| <b>熱海事業</b>                |    |
| 熱海後樂園ホテル                   | 28 |
| <b>札幌事業</b>                |    |
| 東京ドームホテル 札幌 (旧札幌後樂園ホテル)    | 29 |
| <b>競輪事業</b>                |    |
| 松戸競輪場                      | 30 |
| <b>その他</b>                 | 31 |
| .....                      |    |
| 東京ドームグループ ビジネスレポート2012について | 34 |
| .....                      |    |
| 連結財務ハイライト                  | 35 |
| 財務状況と経営成績に関する説明および分析       | 36 |
| 連結5年間の要約財務データ              | 38 |
| 個別5年間の要約財務データ              | 39 |
| .....                      |    |
| 会社概要                       | 40 |
| .....                      |    |
| セグメント別関連会社一覧               | 41 |
| .....                      |    |
| 株式情報                       | 42 |
| .....                      |    |
| 沿革                         | 43 |
| .....                      |    |



21



22



26



28



30



代表取締役社長 執行役員 久代 信次

**Q1. 「スピニングコースター舞姫」の事故について、この1年間、どのような思いで過ごしたのかをお話してください。**

2011年1月30日の「スピニングコースター舞姫」の事故では、お客様の尊い命が失われ、私を含め当社グループの全従業員が、大変なショックを受けました。命が失われたという事実は重く、精神的な痛みも非常に大きなものでした。

一方、その失望感の中で、「二度とこのような事故を起こさない」と全従業員が決意を新たにし、事故原因の徹底究明と安全対策の確立に万全の態勢で臨んできました。

事故から1年以上が経過した現在、外部からアドバイスもいただき、また全社を挙げての努力により、万全な安全対策を確立できたと考えています。

**Q2. 2012年1月期の業績と配当政策についてご説明ください。**

2012年1月期は、舞姫事故、そして東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故が、当社グループの業績に大きな影響を及ぼしました。アトラクションズの4カ月間にわたる休業、原発事故に起因する電力不足によるイベントの中止、震災の影響によるホテルの稼働率低下などが大幅な減収につながりました。年

度後半はアトラクションズの営業再開があったものの、通期では非常に厳しい結果となりました。

こうした状況を受けて、連結業績としては売上高73,208百万円(前期比10.1%減)、営業利益は5,248百万円(同39.4%減)となりました。経常利益は、支払利息の減少や持分法投資損益の改善などにもかかわらず、2,336百万円(同51.7%減)となりました。

また、特別利益として舞姫事故および震災関連の受取保険金を計上する一方、特別損失として舞姫事故による営業補償、震災関連の補修費用、保有有価証券の評価損を計上したことなどにより、当期純利益は362百万円となりました。

配当については、3期ぶりに純利益を計上したものの財務状況などを勘案し、誠に遺憾に存じますが、無配とさせていただきます。

**Q3. 中期経営計画「起動」の進捗状況はいかがでしょうか？**

当社グループは、2011年2月から、中期経営計画「起動」-新たな挑戦に向けて- をスタートしました。計画対象期間を2012年1月期から2016年1月期までの5年間とし、次の「経営目標」「経営課題」を掲げて取り組んでいます。

# 「安全文化」のグループ全社への浸透と、「全員野球」による一層の企業価値の向上に努めます。

厳しい経営環境をグループ全社で乗り切り、  
中期経営計画「起動」を強力に推進しています。

## 【経営目標】

(1) 5年後[2016年1月期]の連結営業利益100億円(3年後[2014年1月期]は90億円)、(2) 5年後[2016年1月期]の連結有利子負債1,700億円(3年後[2014年1月期]は1,850億円)、(3) 配当性向30%を目途とする配当の実施並びに自社株買入消却

## 【経営課題】

(1) 収益通減傾向からの脱却、(2) 新たな成長戦略の研究開発、(3) 経営体質強化への取り組み

初年度となった2012年1月期は、舞姫事故や震災と原発事故の影響でグループ全社にとって非常に厳しい1年でしたが、「パラシュートゾーン」のリニューアルおよび「ASOBono!(アソボノ)」「GO-FUN(ゴファン)」の新規オープンなど、「起動」は着実に前進しています。2013年1月期以降も、掲げた目標と課題に挑み続け、計画の達成を目指します。

## Q4. 2013年1月期の業績見通しについてお伺いします。

2013年1月期の連結業績は、震災の影響が落ち着くに伴う営業環境の回復、東京ドームにおけるイベントの増加、「パラシュートゾーン」の通期稼働、「バイキングゾーン」などでのアトラクションズ新機種導入による大幅な増収が見込まれることから、売上高

78,200百万円、営業利益8,600百万円、経常利益5,900百万円、当期純利益4,500百万円の増収増益となる見通しです。また、配当については、3期ぶりの復配となる、一株当たり期末配当金5円を予定しています。

## Q5. 2013年1月期は、「起動」の2年目ですが、どのような施策に力を入れたいとお考えでしょうか?

東京ドームシティ内には東京ドームのほかに4つのホール、宿泊施設、宴会場・レストランなどの経営資源があり、これらを活かし、国内外の企業や政府・自治体のMICE (Meeting, Incentive, Convention, Exhibition) 開催を、これまで以上に積極的に誘致し





ていきます。また、2011年4～5月に開催して好成績を収めた新たな自主興行の「ONE PIECE DOME TOUR」と「東京リアル脱出ゲーム」などのように、東京ドームの多目的利用を拡大していく方針です。

さらに、「ASOBono!(アソボノ)」「GO-FUN(ゴファン)」なども、引き続きご愛顧いただけるよう、サービス内容を一層、充実させていきます。

#### Q6. 東京ドームグループの「社会的な役割」を教えてください。

現在、わが国を取り巻く経済状況は引き続き厳しいうえ、2012年1月期は地震・台風など自然災害にも見舞われました。余震や放射能汚染、電力不足など、お客様も不安を感じる毎日を送っておられることと想います。

こうした状況でも、魅力的な施設の提供やイベントの開催に加え、当社グループが果たすべき社会的な

役割があります。それは、「ご利用になるすべてのお客様に心から楽しんで感動していただき、ご家族・ご友人同士の絆を深めていただく」ためのお手伝いをするという、非常にやりがいのある役割です。そして、これこそが私どもがお客様に提供できる最大の価値だと考えます。

#### Q7. その役割を果たすために大切なことは何でしょうか？

最も重要なのは、エンタテインメントを提供する企業としての原点・基本に立ち返り、日々、着実な努力を積み重ねることです。「安全文化」をグループ全社に浸透させるとともに、「全員野球」で今まで以上のサービス向上に取り組み、東京ドームシティを「街」としてもっと発展させ、お客様にさらなる感動や安らぎ・安心感を与えられるよう、一人ひとりが尽力していきます。

2013年1月期は営業環境の回復が期待できることから、中期経営計画「起動」の経営目標の達成と経営課題の解決に向けて、グループの総力を結集して、一層の事業展開に邁進する所存です。引き続き、株主・投資家およびステークホルダーのみなさまのご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2012年5月  
代表取締役社長 執行役員

久代 信次

#### 役員紹介 (2012年4月26日現在)

代表取締役相談役

林 有厚

代表取締役社長

執行役員

久代 信次

専務取締役

執行役員

北田 英一

常務取締役

執行役員

本田 顕治

野村 龍介

長岡 勤

取締役(社外)

秋山 智史

森 信博

井上 義久

常勤監査役

祝田 雅美

田中 雅昭

監査役

堤 淳一

野崎 幸雄

児玉 幸治

常務執行役員

谷口 好幸

山田 幸雄

山田 豊

執行役員

西勝 昭

小田切 吉隆

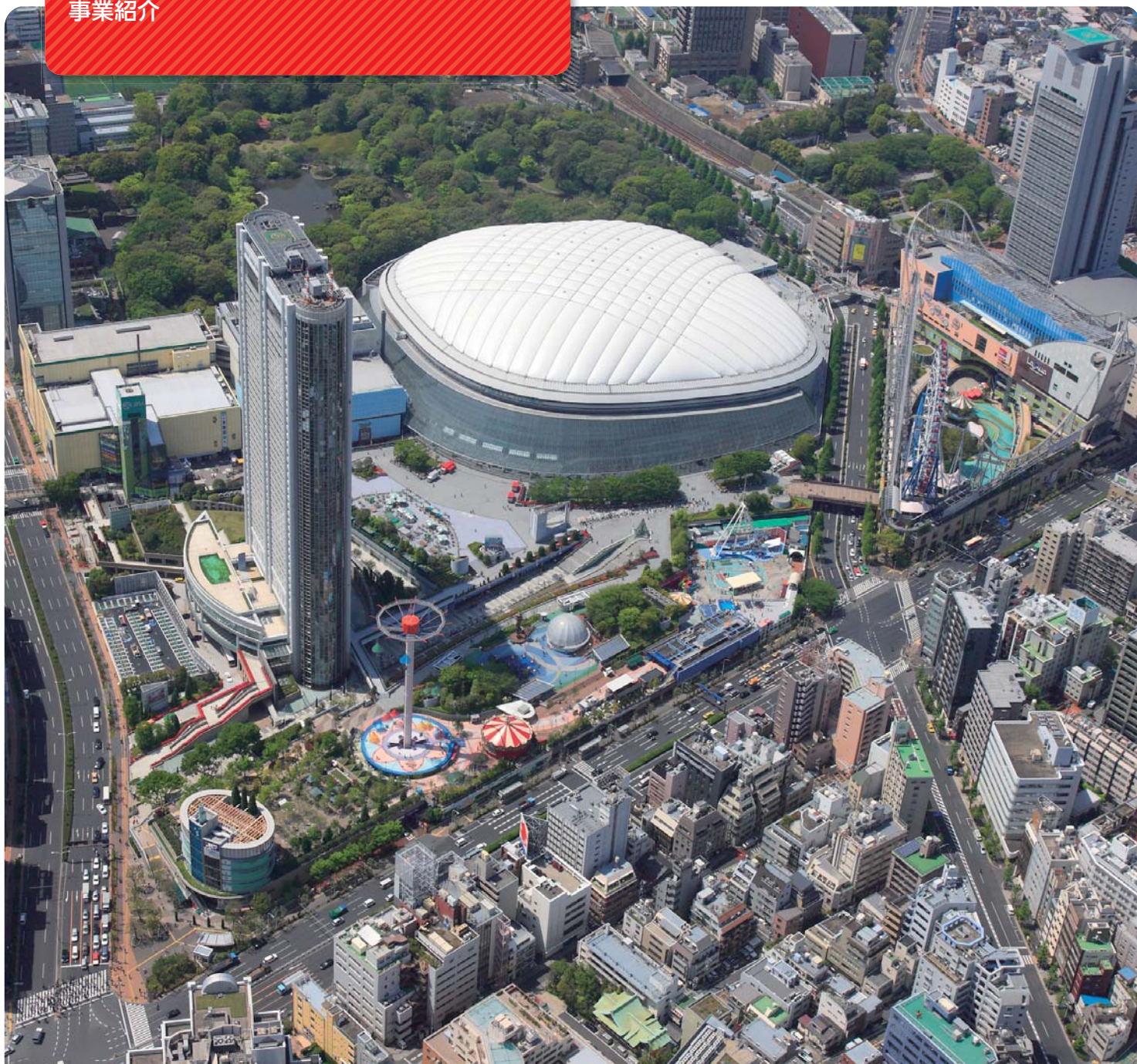
萩原 実

小野澤 紀雄

永田 有平

柴田 馨

今岡 裕継



東京都心の水道橋地区にある東京ドームシティ

東京ドームグループの事業セグメントは、  
「東京ドームシティ事業」「流通事業」  
「不動産事業」「熱海事業」「札幌事業」  
「競輪事業」「その他」の7つで構成されています。

東京ドームグループの各施設には、  
「遊ぶ・観る・聴く・食べる・安らぐ」がいっぱい。  
さらに「深まる」もお楽しみいただけます。  
ご家族・ご友人同士の絆が  
より深まる感動発信地へ、ようこそ。





## 東京ドームシティ事業

東京ドームシティ事業は、東京ドーム、ラクア、東京ドームシティ アトラクションズ、ミーツポート、黄色いビル、東京ドームホテルなど、東京ドームシティにある各種の営業施設から構成され、東京ドームグループの中核をなす事業です。

2012年1月期の東京ドームシティ事業は、「スピニングコースター舞姫」の事故、震災と原発事故に端を発した電力不足の影響で、野球の試合数およびイベント開催の減少、東京ドームシティ アトラクションズの約4カ月間に及ぶ休業、節電による営業時間の短縮など、各営業施設で非常に厳しい状況下に置かれました。

2013年1月期は、東京ドームにおけるMLB (Major League Baseball) 開幕戦および都市対抗野球の開催やコンサートイベントの増加、さらには各アトラクションの営業再開や「パラシュートゾーン」の通期稼働、「バイキングゾーン」でのアトラクション新機種の導入などによって業績は回復し、増収増益となる見通しです。

### 東京ドームシティ事業の主な営業施設の売上高および同事業における構成比率(2012年1月期)

|                   | 売上高(百万円) | 構成比率(%) |
|-------------------|----------|---------|
| 東京ドーム             | 11,842   | 23.1    |
| 飲食&物販             | 11,829   | 23.1    |
| ラクア               | 5,382    | 10.5    |
| 東京ドームシティ アトラクションズ | 1,353    | 2.6     |
| 黄色いビル (WINS, off) | 5,398    | 10.5    |
| ミーツポート            | 1,241    | 2.4     |
| 後楽園ホール            | 484      | 0.9     |
| プリズムホール           | 418      | 0.8     |
| 東京ドームホテル          | 10,717   | 20.9    |
| サウナ東京ドーム          | 275      | 0.5     |
| 東京ドームボウリングセンター    | 335      | 0.6     |

※構成比率は、東京ドームシティ事業全体の売上を100として計算

### 東京ドームシティのエリア・施設別敷地面積

|  |  |
|--|--|
| 東京ドームシティ   | 130,112㎡ (約4万坪)                            |
| 東京ドームシティ アトラクションズ<br>(バイキングゾーン・パラシュート<br>ゾーン・ジオポリスゾーン含む) | 12,991.91㎡                                 |
| ラクア (エリア)  | 15,855.87㎡                                 |
| 東京ドームホテル (棟・外構)  | 12,621.77㎡                                 |
| 黄色いビル  | 11,735.19㎡<br>本館：8,485.82㎡<br>別館：3,249.37㎡ |
| 青いビル   | 1,749.11㎡                                  |

### 東京ドームシティ来場者数

|                         | (単位:千人)  |          |        |      |
|-------------------------|----------|----------|--------|------|
|                         | 2011年1月期 | 2012年1月期 | 比較増減   | %    |
| 東京ドーム・黄色いビル・<br>青いビルエリア | 15,519   | 14,486   | -1,033 | 93.3 |
| ラクア・アトラクションズ<br>エリア     | 14,261   | 12,462   | -1,798 | 87.4 |
| 東京ドームホテル・<br>ミーツポートエリア  | 5,245    | 4,588    | -657   | 87.5 |
| 合計                      | 35,026   | 31,537   | -3,489 | 90.0 |

### 東京ドームシティ各施設別入場者数の推移

| 施設名                                   | (単位:千人)  |          |        |       |
|---------------------------------------|----------|----------|--------|-------|
|                                       | 2011年1月期 | 2012年1月期 | 比較増減   | %     |
| 東京ドーム                                 | 7,070    | 6,237    | -833   | 88.2  |
| スパラクア                                 | 649      | 623      | -26    | 96.0  |
| 東京ドームホテル <sup>(※1)</sup>              | 1,816    | 1,546    | -269   | 85.1  |
| 東京ドームシティ<br>アトラクションズ <sup>(※2)</sup>  | 5,799    | 1,798    | -4,000 | 31.0  |
| シアターGロッソ                              | 252      | 240      | -11    | 95.5  |
| ASOBono!(アソボノ) <sup>(※3)</sup>        | -        | 171      | -      | -     |
| 東京ドームボウリングセンター                        | 228      | 217      | -10    | 95.3  |
| バーチャルスポーツプラザ<br>打撃王 <sup>(※4)</sup>   | 200      | 125      | -75    | 62.7  |
| 東京ドーム<br>ローラースケートアリーナ <sup>(※5)</sup> | -        | 14       | -      | -     |
| 後楽園ホール                                | 358      | 352      | -6     | 98.3  |
| プリズムホール                               | 407      | 623      | 215    | 152.7 |
| TOKYO DOME CITY HALL                  | 494      | 431      | -62    | 87.3  |
| サウナ東京ドーム                              | 39       | 36       | -3     | 91.6  |
| 野球体育博物館                               | 104      | 65       | -39    | 62.1  |

※1 東京ドームホテルは、宿泊客・レストラン利用客・宴会利用客の合計 (東京ドームホテル外の施設や宿泊者のみ利用可能な施設は除く)

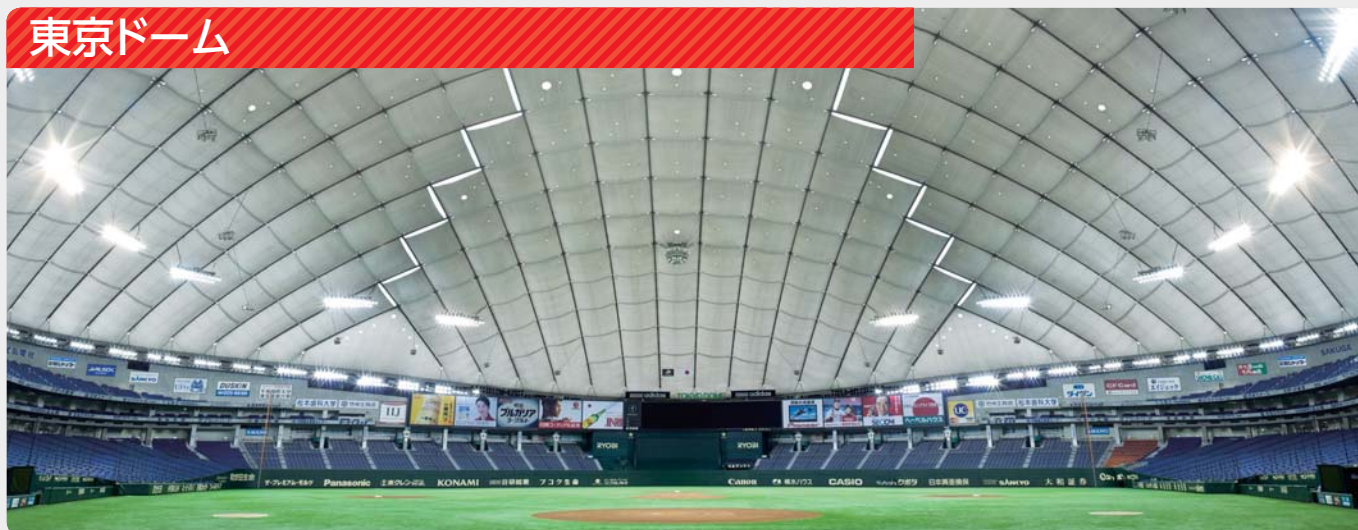
※2 東京ドームシティ アトラクションズは、のべ乗車人数

※3 2011年8月19日、営業開始

※4 2011年11月13日、営業終了。2011年12月22日より「東京ドーム ローラースケートアリーナ」として新規オープン

※5 2011年12月22日、営業開始

## 東京ドーム



東京ドームは、1988年3月に日本初の「全天候型多目的スタジアム」として誕生しました。野球・アメリカンフットボールなどのフィールドスポーツ、さらにはコンサート・コンベンション・展示会まで、各種の大規模イベントに対応可能な多機能性が最大の特長です。

### 東京ドームの基本情報

|     |                   |
|-----|-------------------|
| 開業日 | 1988年(昭和63年)3月17日 |
| 建設費 | 350億円             |

### 東京ドームの施設概要

|    |   |
|----|---|
| 面積 | 建築面積: 46,755㎡ (33,596㎡) (広さを比較する場合の「東京ドーム何個分」の基準)<br>フィールド面積: 13,000㎡ (11,493㎡) (両翼100m・外野センターまで122m) |
| 容積 | 約124万㎡ (大きさを比較する場合の「東京ドーム何杯分」の基準)   |

※( )内は後楽園球場の数値

### 東京ドームの売上高

|     | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期 |
|-----|----------|----------|----------|
| 売上高 | 13,219   | 12,341   | 11,842   |

(単位:百万円)

### ジャンル別稼働日数

|                       | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期 |
|-----------------------|----------|----------|----------|
| プロ野球<br>(うち読売ジャイアンツ戦) | 102 (63) | 87 (64)  | 78 (63)  |
| その他野球                 | 32       | 31       | 13       |
| コンサート                 | 82 (36)  | 91 (40)  | 90 (43)  |
| その他イベント               | 67 (48)  | 63 (45)  | 85 (57)  |
| 合計                    | 283      | 272      | 266      |

(単位:日数)

※コンサートとその他イベントの( )内は本番日の日数

東京ドームの2012年1月期における売上高は、11,842百万円(前期比4.0%減)、稼働率は72.9%(同1.6ポイント減)となりました。新規の自主興行で観客を動員し、売上に貢献しましたが、震災と原発事故に端を発した電力不足の影響を受け、プロ野球パシフィックリーグの公式戦の一部と都市対抗野球の東京ドームでの開催が中止となったことなどが減収の主要な要因です。

各種イベントのジャンル別の状況は、コンサートイベントが前期比1日減、新規の自主興行なども加わった、その他イベントが同22日増と健闘したものの、前述のとおり野球関連イベントが同27日減と、大幅な減少となりました。

2013年1月期は、すでに2012年3月にMLB開幕戦が開催されたほか、都市対抗野球の開催など、野球イベントも増加し、コンサートイベントも堅調に推移することから、増収を見込んでいます。

## 飲食&物販



「飲食&物販」は、東京ドーム・黄色いビル・東京ドームシティ アトラクションズ・青いビルなど、東京ドームシティの各施設にある、直営の飲食店および売店により構成されます。東京ドームを中心にTOKYO DOME CITY HALLなど各種会場で開かれるプロ野球・コンサート・コンベンション・展示会などの各種イベントの来場者に飲食や物販を提供しています。

### 東京ドームシティ主要施設エリア別売上高

(単位:百万円)

|                  | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期      |
|------------------|----------|----------|---------------|
| 売上高              | 13,028   | 13,049   | <b>11,829</b> |
| 東京ドームエリア         | 10,390   | 10,603   | <b>10,172</b> |
| 黄色いビルエリア         | 1,070    | 944      | <b>675</b>    |
| (内訳) アトラクションズエリア | 1,100    | 1,056    | <b>602</b>    |
| 青いビルエリア          | 296      | 288      | <b>257</b>    |
| その他              | 170      | 156      | <b>121</b>    |

2012年1月期における飲食&物販の売上高は11,829百万円(前期比9.3%減)となりました。「スピニングコースター舞姫」事故による東京ドームシティアトラクションズの休業や震災と電力不足によるイベント・来場者の減少が減収の主な要因です。

エリア別の売上高では、飲食&物販全体の8割以上を占める東京ドームエリアが、東京ドームでの都市対抗野球の開催中止などによって10,172百万円(同4.0%減)となりました。黄色いビルエリアは競馬の中止による利用者数の減少で675百万円(同28.4%減)、アトラクションズエリアはアトラクションズの休業と飲食店の退店により602百万円(同42.9%減)、青いビルエリアが257百万円(同10.7%減)、その他が121百万円(同22.4%減)となりました。

2013年1月期は、東日本大震災の影響を脱し、東京ドームでのイベント開催日数の増加に加え、東京ドームシティアトラクションズにおける「パラシュートゾーン」の通期稼働や「バイキングゾーン」新規オープンなどにより、増収を見込んでいます。



メジャーリーグテーマレストラン「ベースボールカフェ」



ベースボールショップ TO:DO



2003年5月に開業したラクーアは、「都会の真ん中でリフレッシュを楽しむ」をコンセプトとして、天然温泉スパ ラクーア、ショップ&レストラン、アトラクションを集結したエンタテインメント型融合施設。スパ ラクーアは、都市型温浴施設の代表として広く認知され、女性を中心とする多くのお客様に上質な癒しの空間を提供しています。

#### ラクーアの基本情報

開業日 2003年(平成15年)5月1日

#### ラクーアの施設概要

面積 15,855.87㎡

階数 地下2階～9階

#### ラクーアの売上高およびスパ入館者数

|            | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期     |
|------------|----------|----------|--------------|
| 売上高(百万円)   | 6,062    | 6,075    | <b>5,382</b> |
| スパ入館者数(千人) | 641      | 649      | <b>623</b>   |

#### ラクーア来街者数

(単位:千人)

|      | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期      |
|------|----------|----------|---------------|
| 来街者数 | 13,841   | 13,275   | <b>11,721</b> |

#### テナント売上

(単位:百万円)

|        | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期      |
|--------|----------|----------|---------------|
| テナント売上 | 12,274   | 12,046   | <b>11,232</b> |

2012年1月期におけるラクーアの売上高は5,382百万円(前期比11.4%減)、スパ ラクーアの入館者数は62万3,000人(同4.0%減)となりました。この要因は、事故による東京ドームシティ アトラクションズの休業、震災の影響による営業時間の短縮、東京ドームシティ内の各種イベントの中止や延期、消費の自粛ムードの広がりなどによるものです。ラクーア内のテナントの売上高についても、同様の理由により来街者数が1,172万1,000人(同11.7%減)と減少したため、11,232百万円(同6.7%減)となりました。

2013年1月期については、東京ドームシティ アトラクションズの全面オープン、東京ドームでのイベント開催日数の増加などもあり、さらなる増収が期待されます。

## 東京ドームシティ アトラクションズ



東京ドームシティ アトラクションズは、「後樂園ゆうえんち」の伝統を受け継ぎながら、2003年5月1日に誕生した総合エンタテインメント施設です。2012年1月期は、「スピニングコースター舞姫」事故による長期の営業休止により減収となりましたが、「パラシュートゾーン」「バイキングゾーン」などのリニューアルを行い、2013年1月期は業績の回復を図っています。

### 東京ドームシティ アトラクションズの基本情報

|     |  |
|-----|--|
| 開業日 | 1955年(昭和30年)7月9日<br>※「後樂園ゆうえんち」として開業し、2003年(平成15年)4月17日に改称 |
|-----|--|

### 東京ドームシティ アトラクションズの売上高および乗り物利用者数(のべ乗車人数)

|          | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期     |
|----------|----------|----------|--------------|
| 売上高(百万円) | 3,024    | 2,967    | <b>1,353</b> |
| 利用者数(千人) | 5,392    | 5,799    | <b>1,798</b> |

### アトラクション一覧

(2012年5月現在)

| 施設名           | アトラクション名   |
|---------------|--|
| ラクアゾーン        | ビッグ・オー / サンダードルフィン (運休中)<br>ワンダードロップ / ザ・ダイブ<br>ヴィーナスラグーン / ウォーターシンフォニー (無料) |
| バイキングゾーン      | スーパーバイキング ソラブネ / フリフリグランプリ<br>キッズハッカー / わんぱくバス / カルーセル                       |
| ジオポリスゾーン      | マジクエスト / トウキョウパニッククルーズ<br>ルパン三世 ～迷宮の畏～<br>3Dトリックアートパラダイス トリパラ                |
| パラシュートゾーン     | スカイフラワー / ブルームエクスプレス<br>ウォーターキャノン / フラッシュラッシュ<br>ちゃぷちゃぷクリーク (無料) / お化け屋敷     |
| スプラッシュガーデンゾーン | ピクシーカップ / パワータワー<br>コロッコ / マジカルミスト (無料)                                      |
| シアターGロッソ      | 戦隊ヒーローショー劇場  |

2012年1月期における東京ドームシティ アトラクションズの売上高は1,353百万円(前期比54.3%減)、乗り物利用者数は179万8,000人(同69.0%減)となりました。

2011年1月30日の「スピニングコースター舞姫」事故を受けて、安全管理体制を確立するため、「シアターGロッソ」での戦隊ヒーローショーは同年4月1日まで、各アトラクションは5月31日まで、営業を休止しました。このため、戦隊ヒーローショーの開催数は前年に比べて101回の減少となりました。「サンダードルフィン」は2010年12月5日に発生したボルト落下事故のあと、原因究明のために運休が続いています。「スピニングコースター舞姫」事故の後、各アトラクションの安全対策については、安全推進室を設置し、会社を挙げて徹底的に取り組んでいます。

2011年8月19日、「パラシュートゾーン」をリニューアルオープンし、人気の「スカイフラワー」が装いを新たにしたりほか、4種の新アトラクションを導入しました。

続いて2012年3月16日には、「タワーランド」の跡地を、バイキング型アトラクション「スーパーバイキング ソラブネ」とカート型アトラクション「フリフリグランプリ」が楽しめる、「バイキングゾーン」としてリニューアルオープンしました。「パラシュートゾーン」および「バイキングゾーン」は、共に今後の業績回復に寄与するものと期待されています。



バイキングゾーン:スーパーバイキング ソラブネ



3Dトリックアートパラダイス トリパラ

## ●2つの新アトラクションを含む新エリア「バイキングゾーン」が登場!

2012年3月16日より、2つの新アトラクションを含む新エリア「バイキングゾーン」の営業を開始しました。従来の「タワーランド」の跡地に、新たにバイキング型アトラクション「スーパーバイキング ソラブネ」とカート型アトラクション「フリフリグランプリ」の2機種を導入し、既存の「キッズハッカー」「わんぱくバス」「カルーセル」を合わせ、計5機種で構成されるのが「バイキングゾーン」です。

### ・スーパーバイキング ソラブネ

80人乗りの巨大な海賊船が、ダイナミックにスイングして最高約15mの高さまで上昇した後に急降下。まるで大空に舞い上がるかのような、浮遊感あふれる空中航海を体験できます。

### ・フリフリグランプリ

時速約3kmで走行するドリフトカーを運転し、コース上にある金貨・銀貨の上を通過して得点を競います。触れると減点される、コース両サイドのガードレールを避けながら、車幅とほぼ同じ道幅の狭い「ギリギリスラローム」や、ハンドルが利かなくなる「ツルツルバンク」などの難関をクリアし、高得点を目指します。



フリフリグランプリ



キッズハッカー

## ●ジオポリスに戦隊モノも楽しめる3Dトリックアートが誕生

同じく3月16日、ジオポリスの地下1階に日本初となる、スーパー戦隊ヒーローの3Dトリックアートも楽しめる「3Dトリックアートパラダイス トリパラ」が誕生しました。

### ・3Dトリックアートパラダイス トリパラ

戦隊ヒーローに加え、動物や恐竜など30点以上の3Dトリックアートと一緒に撮影できる幻想空間です。すべてのトリックアートに、撮影時の見本となる「トリパラポーズ」と撮影場所を示す足形マークの「トリパラポイント」が付くので、目の錯覚を活かした「なりきり撮影」を簡単に楽しめます。

## 黄色いビル



黄色いビルは、場外馬券売場である「WINS後楽園」(日本中央競馬会)および「oftt後楽園」(南関東公営4競馬)のほか、東京ドームボウリングセンター、東京ドーム ローラースケートアリーナ、各種レストラン、書店、コンビニエンスストア、郵便局などのテナント・施設を備えています。

### 黄色いビルの売上高

(単位:百万円)

|     | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期 |
|-----|----------|----------|----------|
| 売上高 | 5,631    | 5,501    | 5,398    |

### 黄色いビルの施設概要

|    |                |
|----|----------------|
| 面積 | 敷地面積: 約11,735㎡ |
| 階数 | 8階             |

### WINS・oftt開催日数

(単位:日数)

|          | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期 |
|----------|----------|----------|----------|
| WINS開催日数 | 106      | 106      | 95       |
| oftt開催日数 | 265      | 269      | 244      |

2012年1月期における黄色いビルの売上高は、東日本大震災により「oftt後楽園」の開催日数が前年に比べて減少したことなどにより、5,398百万円(前期比1.8%減)となりました。

場外馬券売場としては日本最大の規模となる「WINS後楽園」の総利用者数は397万9,800人(同10.4%減)、一日平均の利用者数は4万1,893人(同4人減)でした。また、「oftt後楽園」の総利用者数は108万5,200人(同11.7%減)、一日平均の利用者数は4,448人(同120人減)となりました。なお、「oftt後楽園」の開催日数は244日であり、その内訳は大井競馬場101日、川崎競馬場59日、船橋競馬場43日、浦和競馬場41日です。

## TOKYO DOME CITY HALL (旧JCB HALL) / 後楽園ホール / プリズムホール



TOKYO DOME CITY HALL (旧JCB HALL)

格闘技の名勝負が生まれた後楽園ホール、数多くの展示会やセミナーが開かれるプリズムホール、客席とステージが近く一体感を味わえるTOKYO DOME CITY HALL (旧JCB HALL)。3ホールとも、イベント内容や開催規模に応じて幅広い対応が可能な多目的ホールです。

### 施設概要

|      | TOKYO DOME CITY HALL   | プリズムホール     | 後楽園ホール                  |
|------|------------------------|-------------|-------------------------|
| 開業日  | 2008年3月19日             | 1990年12月17日 | 1962年4月16日              |
| 面積   | 12,300㎡<br>(客席部分を含む)   | 2,809㎡      | ホール: 575㎡<br>展示会場: 198㎡ |
| 収容人数 | 2,471名<br>(エンドステージ着席時) | 最大2,085名    | 最大2,005名                |

### 各ホールの稼働率(後楽園ホールは格闘技の興行回数)

|          | TOKYO DOME CITY HALL | プリズムホール      | 後楽園ホール      |
|----------|----------------------|--------------|-------------|
| 2010年1月期 | 81.1%                | 60.3%        | 317回        |
| 2011年1月期 | 95.3%                | 50.7%        | 303回        |
| 2012年1月期 | <b>89.6%</b>         | <b>55.6%</b> | <b>308回</b> |

### ミーツポートの売上高

(単位:百万円)

|     | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期     |
|-----|----------|----------|--------------|
| 売上高 | 986      | 1,039    | <b>1,241</b> |



後楽園ホール



プリズムホール

2012年1月期の各ホールの売上高は、TOKYO DOME CITY HALLが570百万円(前期比25.0%減)、後楽園ホールが484百万円(同2.8%減)、プリズムホールが418百万円(同0.2%減)となりました。

2011年3月31日から新名称となったTOKYO DOME CITY HALLの減収は、イベント開催数が前年の348回から327回へと減少したことが主な要因です。これに伴い、ホール入館者数も49万4,000人から43万1,000人へと減少しました。

「格闘技の聖地」、後楽園ホールにおける格闘技の開催数は308回で、前期の303回から5回増加しました。その内訳はボクシングが9回減少、プロレスが18回増加、キックボクシングが4回減少となりました。

プリズムホールは、東日本大震災の影響を受けて、各種セミナー・販売会・イベントなどの開催数が上半期において大きく減少しましたが、コンサートイベントのグッズ販売など、東京ドームに連動したイベントが多く開催されたために入場者数では前年を上回り、稼働日数も増加しました。

## 東京ドームホテル



東京ドームホテルは、エンタテインメントエリアである東京ドームシティ内という好立地が大きな特長です。「リラクゼーション」はもちろん、シティ内の各施設との連携が生み出す「楽しさ」や「遊び心」をお客様に提供しています。2013年1月期は、東京ドームシティのレジャー・飲食・ショッピング・コンベンションなどの機能を組み合わせた新商品の開発を検討し、増収を目指していきます。

2012年1月期における東京ドームホテルの売上高は10,717百万円（前期比17.5%減）、客室稼働率は69.1%（同15.0ポイント減）となりました。宿泊者数は38万8,000人（同20.0%減）、婚礼組数は264組（同35.8%減）、宴会件数は1,959件（同10.9%減）となりました。

以下に、宿泊・宴会・レストランの3部門の概況をご説明します。

宿泊部門は、減収となりました。震災と原発事故の影響による訪日外国人の減少と、東京ドームシティ アトラクションズの営業中止による来場者の減少が主な要因です。通期の客室稼働率は69.1%で、2011年10月と12月、2012年1月は前年実績を上回ったものの、震災直後の大幅な落ち込みを取り戻すには至りませんでした。しかしながら、第4四半期には大型団体の宿泊受注があり、販売室数もほぼ前年並みで推移しました。また、夏期以降にTOKYO DOME CITY HALLやプリズムホールで開かれた各種イベントとタイアップした宿泊プランも好評でした。

婚礼・宴会部門（婚礼宴会・一般宴会）も震災の影響により、婚礼組数および宴会の獲得数が減少し、減収となりました。婚礼組数の低迷の打開策として、ビジュアル（広告・パンフレット制作・ウェブ画像の変更）作成や接客方法の研修を実施した結果、2012年1月以降

は上向きつつあります。宴会についても、第3四半期以降は新規スポット案件の開拓が続き、今後の売上回復が期待できます。

レストラン部門も大幅な減収となりました。ただし、震災以降の徹底した経費コントロールなどが効を奏し、第3四半期以降の業績は回復に向かいました。

2013年1月期は、安定した利益の確保に向けて、東京ドームグループの経営資源を活用し、新たな「顧客の創造」に

挑戦します。具体的には、東京ドームシティの各施設ならびに各種の開催イベントと連動した話題性の高い宿泊プランの販売、インターネット予約代理店の会員向けシークレットプランなどによる販売強化、また「後樂園飯店50周年記念フェア」「秋の北海道フェア」や、2012年5月の東京スカイツリー開業に伴う団体客の利用促進などの施策を展開していきます。

#### 東京ドームホテルの売上高

(単位:百万円)

|     | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期      |
|-----|----------|----------|---------------|
| 売上高 | 13,014   | 12,989   | <b>10,717</b> |

#### 東京ドームホテルの基本情報

開業日 2000年6月1日

#### 東京ドームホテルの施設概要

|     |                              |
|-----|------------------------------|
| 面積  | 建築面積:7,192.9㎡ 敷地面積:15,865.4㎡ |
| 階数  | 地下3階~43階                     |
| 高さ  | 155m                         |
| 客室数 | 1,006室                       |

#### 東京ドームホテルの客室稼働率・宿泊者数・外国人宿泊者数・婚礼組数・宴会件数

|              | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期     |
|--------------|----------|----------|--------------|
| 客室稼働率 (%)    | 79.2     | 84.1     | <b>69.1</b>  |
| 宿泊者数 (千人)    | 444      | 486      | <b>388</b>   |
| (内訳)         |          |          |              |
| 日本人宿泊者数 (千人) | 350      | 349      | <b>307</b>   |
| 外国人宿泊者数 (千人) | 94       | 137      | <b>80</b>    |
| 婚礼組数 (組)     | 448      | 411      | <b>264</b>   |
| 宴会件数 (件)     | 2,097    | 2,199    | <b>1,959</b> |



アーティスト カフェ (43階)



バー「2000 (トゥエニーオーオー)」(6階)

## 東京ドームシティのその他の営業施設 ASOBono!(アソボーノ)／ GO-FUN(ゴファン)／サウナ東京ドーム



東京ドームシティ内のその他の施設の中から、2011年8月に共に新規オープンした「ASOBono!(アソボーノ)」と「GO-FUN(ゴファン)」、サウナ東京ドームをご紹介します。

### ASOBono!(アソボーノ)、GO-FUN(ゴファン)、サウナ東京ドームの売上高 (単位:百万円)

|                 | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期 |
|-----------------|----------|----------|----------|
| ASOBono!(アソボーノ) | -        | -        | 169      |
| GO-FUN(ゴファン)    | -        | -        | 250      |
| サウナ東京ドーム        | 308      | 283      | 275      |

### ASOBono!(アソボーノ)の施設概要

|    |                                     |  |
|----|-------------------------------------|--|
| 面積 | 敷地面積: 約1,720㎡ ※常設のキッズ施設としては東京都内で最大級 |  |
| 定員 | 500名                                |  |

### GO-FUN(ゴファン)の施設概要

|     |       |
|-----|-------|
| 店舗数 | 6店舗   |
| 席数  | 約300席 |



GO-FUN



サウナ東京ドーム

2012年1月期における各施設の売上高は、「ASOBono!(アソボーノ)」が169百万円、「GO-FUN(ゴファン)」が250百万円、サウナ東京ドームが275百万円(前期比2.8%減)となりました。

2011年8月19日にリニューアルオープンした、「パラシュートゾーン」の1階部分に新規オープンしたのが、未就学児対象の屋内型キッズ施設「ASOBono!(アソボーノ)」とフードコート「GO-FUN(ゴファン)」です。

「ASOBono!(アソボーノ)」は、「アドベンチャーオーシャン」「プレジャーステーション」「カラフルタウン」「トイフォレスト」「ハイハイガーデン」の5つのエリアで構成。親子が一緒に遊べる十分なスペースで、子供たちの創造力や好奇心をかき立てる様々な「遊び」を提供しています。入館者数については、東日本大震災によるオープン時期の遅れにもかかわらず、2012年1月末現在で、想定を上回る約17万人を達成しました。

「GO-FUN(ゴファン)」は、東京ドームシティで来場者から近隣住民まで、幅広い層の方々に気軽にお食事をお楽しみいただける、6店舗が集まったフードコートです。小さなお子様連れファミリー向けの「キッズテーブル」コーナー、グループ向けのボックスシートコーナーなど、バラエティ豊かな座席を全部で約300席、用意しています。

東京ドームシティのその他の営業施設  
東京ドームボウリングセンター /  
東京ドーム ローラースケートアリーナ



東京ドームボウリングセンター

黄色いビル内にある、東京ドームボウリングセンターと2011年12月に新規オープンした東京ドーム ローラースケートアリーナをご紹介します。

東京ドームボウリングセンター、東京ドーム ローラースケートアリーナの売上高 (単位:百万円)

|                    | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期 |
|--------------------|----------|----------|----------|
| 東京ドームボウリングセンター     | 368      | 355      | 335      |
| 東京ドーム ローラースケートアリーナ | -        | -        | 21       |

2012年1月期における両施設の売上高は、東京ドームボウリングセンターが335百万円(前期比5.6%減)、新規オープンした東京ドーム ローラースケートアリーナが21百万円となりました。

黄色いビル4・5階にある東京ドームボウリングセンターは、ノンターゲットを含む全54レーンとオートスコアラーで初心者や小さなお子様も楽しめる施設です。ボウリングと東京ドームシティ内のレストランでのパーティーがセットになった「ボウリングパック」や、2時間単位で好きな時間帯を選んでボウリングを思う存分楽しめる「時間貸し」など、様々なサービスを用意しています。2012年1月期は東日本大震災の影響を大きく受け、営業中止や営業時間の短縮により、2011年3～4月を中心に減収となりました。

2011年12月22日より営業を開始した、屋内ローラースケート施設の東京ドーム ローラースケートアリーナは、同年11月13日で営業を終了した「バーチャルスポーツプラザ打撃王」に替わって黄色いビルの4階にオープンしました。40m×24mのフラットなメインリンクに加え、リンクや天井に仕掛けられたライティングで、華麗な光の空間を演出し、幅広いお客様にご好評いただいています。



東京ドーム ローラースケートアリーナ

## ショッピング



流通事業では、「Stylish Beauty」をコンセプトに、セレクトコスメなどの化粧品やビューティーアイテムを取り扱うショッピングを運営しています。1971年のオープン以来、遊び心あふれる美の情報ステーションとして、多くの女性をサポートしています。

### 売上高・客単価・月坪売上・店舗数

|           | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期     |
|-----------|----------|----------|--------------|
| 売上高 (百万円) | 7,869    | 8,114    | <b>7,501</b> |
| 客単価 (円)   | 2,482    | 2,497    | <b>2,461</b> |
| 月坪売上 (千円) | 393      | 394      | <b>368</b>   |
| 店舗数       | 39       | 40       | <b>41</b>    |

2012年1月期における流通事業の売上高は7,501百万円（前期比7.6%減）、客単価2,461円（同1.4%減）、1カ月あたりの坪売上（月坪売上）は36万8千円（同6.5%減）となりました。

ショッピングは、新規開店した3店舗（銀座インズ店・梅田エスト店・東武北千住駅店）が寄与したものの、札幌店・千葉店・自由ヶ丘店の退店に加え、改装による休業が6店舗あったほか、東日本地域の店舗が東日本大震災の影響により営業時間の短縮を余儀なくされたことなどから減収となりました。

2013年1月期の店舗展開は、2012年3月15日にマルイシティ池袋店、同30日に丸井柏VAT店、4月20日にコスメティカ 阿佐ヶ谷ダイヤ街店を新規開店しました。引き続き営業条件を見極めつつ、さらなる新店舗の出店を検討していきます。



アドホック新宿・プチモールニツ木など

プチモールニツ木



不動産事業では、主に連結子会社の松戸公産(株)が不動産の賃貸事業を行っています。所有物件としては、商業施設ビルのアドホック新宿ビル(東京都新宿区)、ショッピングモールのプチモールニツ木(千葉県松戸市)、オフィスビルの代々木イーストビル(東京都渋谷区)・市ヶ谷ビル(東京都新宿区)などがあります。

不動産事業[松戸公産(株)]の売上高

(単位:百万円)

|     | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期 |
|-----|----------|----------|----------|
| 売上高 | 1,131    | 1,140    | 1,294    |

2012年1月期における松戸公産(株)の不動産事業の売上高は1,294百万円(前期比13.5%増)となりました。

プチモールニツ木や市ヶ谷ビルなどではテナントとの良好な関係を築き、安定した収益基盤となっています。また、2011年3月の代々木イーストビルの取得や、千葉県松戸市にある社宅を改装した賃貸マンションの新規稼働もあり、業績は順調に推移しました。

2013年1月期は、収益基盤のさらなる強化のため、新たな優良物件の取得に向けたリサーチの強化を図ってまいります。



アドホック新宿ビル



代々木イーストビル

## 熱海後樂園ホテル



熱海湾に臨む熱海後樂園ホテルは、1965年8月に開業。2つの天然温泉、エステサロンや最新のオーディオ・ビジュアルシステムを採用したコンベンション施設を備え、ご家族全員で楽しめる遊園地「APIO」も併設しています。

## 熱海後樂園ホテルの施設概要

|      |        |          |
|------|--------|----------|
| タワー館 | 階数：18階 | 客室数：93室  |
| みさき館 | 階数：11階 | 客室数：142室 |

## 熱海後樂園ホテルの売上高と客室稼働率・宿泊者数

|           | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期 |
|-----------|----------|----------|----------|
| 売上高 (百万円) | 4,545    | 4,561    | 3,662    |
| 客室稼働率 (%) | 73.3     | 72.2     | 60.5     |
| 宿泊者数 (千人) | 202      | 197      | 161      |

2012年1月期における売上高は3,662百万円（前期比19.7%減）、客室稼働率は60.5%（同11.7ポイント減）、宿泊者数は16万1,000人（同18.4%減）となりました。減収の主な要因は、東日本大震災に伴う計画停電の影響でキャンセルが多数発生したことによる、宿泊者数・稼働率の大幅な減少です。

2013年1月期は、稼働率の回復に伴い、業績も改善する見通しです。

## 東京ドームホテル 札幌(旧札幌後楽園ホテル)



札幌市の大通公園に面した東京ドームホテル 札幌は1988年6月に、「札幌後楽園ホテル」として開業。2011年4月1日より名称を「東京ドームホテル 札幌」に変更し、東京ドームホテルのアミューズメント性を活かした「楽しさ度No.1ランキングホテル」を目指しています。

## 東京ドームホテル 札幌の施設概要

|     |          |
|-----|----------|
| 階数  | 地下3階～14階 |
| 客室数 | 285室     |

## 東京ドームホテル 札幌の売上高と客室稼働率・宿泊者数・婚礼組数・宴会件数

|          | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期     |
|----------|----------|----------|--------------|
| 売上高(百万円) | 2,837    | 2,546    | <b>2,584</b> |
| 客室稼働率(%) | 63.8     | 62.8     | <b>65.3</b>  |
| 宿泊者数(千人) | 114      | 114      | <b>120</b>   |
| 婚礼組数(組)  | 212      | 160      | <b>196</b>   |
| 宴会件数(件)  | 2,550    | 2,606    | <b>2,713</b> |

2012年1月期における売上高は2,584百万円(前期比1.5%増)、客室稼働率は65.3%(同2.5ポイント増)、宿泊者数は12万人(同6%増)でした。東日本大震災および円高による訪日外国人の激減などにより第2四半期までは大幅な減収でしたが、ウェブ経由の予約を中心に客室稼働率・売上が伸びたこと、および婚礼の増加によって、通年では増収となりました。

2013年1月期は、新名称「東京ドームホテル 札幌」の一層の認知度向上とイメージアップに向けたプロモーションの実施や、ウェブ商品の充実および販売チャネルの拡充などにより、さらなる業績の改善を図っていきます。

## 松戸競輪場



競輪事業は、連結子会社の松戸公産(株)が運営する松戸競輪場の賃貸・運営および場外発売を事業活動としています。

### 松戸競輪場の施設概要

|       |                               |
|-------|-------------------------------|
| 面積    | 敷地面積48,791.03㎡、建築面積37,703.08㎡ |
| 競争路周長 | 333.33m                       |
| 総収容人数 | 32,297人                       |

### 競輪事業の売上高内訳(賃貸収入・運営受託収入・その他収入)

(単位:百万円)

|             | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期 |
|-------------|----------|----------|----------|
| 競輪事業売上      | 1,941    | 2,465    | 2,462    |
| 賃貸収入        | 603      | 906      | 763      |
| (内訳) 運営受託収入 | 1,074    | 1,285    | 1,395    |
| その他収入       | 263      | 273      | 303      |

### 松戸競輪場の車券売上

(単位:百万円)

|      | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期 |
|------|----------|----------|----------|
| 車券売上 | 21,964   | 42,504   | 38,095   |

※車券売上は、主催者に帰属する営業指標

2012年1月期における、競輪事業の売上高は2,462百万円(前期比0.1%減)となりました。

しかし、2011年5月の「GI・SSシリーズ」、7月の「GⅢ・松戸記念競輪」など大型レースの開催や、電力の契約先の変更などの全社コスト削減により、全国的に車券売上高の長期低下傾向が続く中、営業利益は増益となりました。

2013年1月期は、競輪場の施設保有会社として、安全・安心を基本として快適な施設環境の整備を図ります。また、厳しさを増しつつある競輪事業の実情を踏まえ、自治体・関連競技団体との間で、さらなるレース管理費の節減に向けた検討を行っていきます。



その他



その他は、立体駐車場などの設計・施工・運営管理事業、生命・損害・医療保険代理店事業、有価証券の保有・管理事業、有線テレビジョン放送事業や、スポーツ施設の運営受託などから構成されています。

2012年1月期における、その他の売上高は4,362百万円（前期比19.9%減）となりました。

（株）東京ドームスポーツが運営受託を行う横浜の「スパ イアス」は東日本大震災の影響で、2011年3月11日より4月25日まで館内の安全確認・補修作業のため営業を休止したことにより、売上高は700百万円（前期比11.7%減）となりました。2012年3月に業務受託の契約満了により運営受託が終了しましたが、今後、「スパ イアス」運営のノウハウと経験をビジネスモデルとして蓄積していきます。

その他の売上高

(単位:百万円)

|     | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期 |
|-----|----------|----------|----------|
| 売上高 | —        | 5,446    | 4,362    |

※事業の種類別セグメントの区分変更に伴い、2期分のみ掲載しています。

「スパ イアス」の売上高

(単位:百万円)

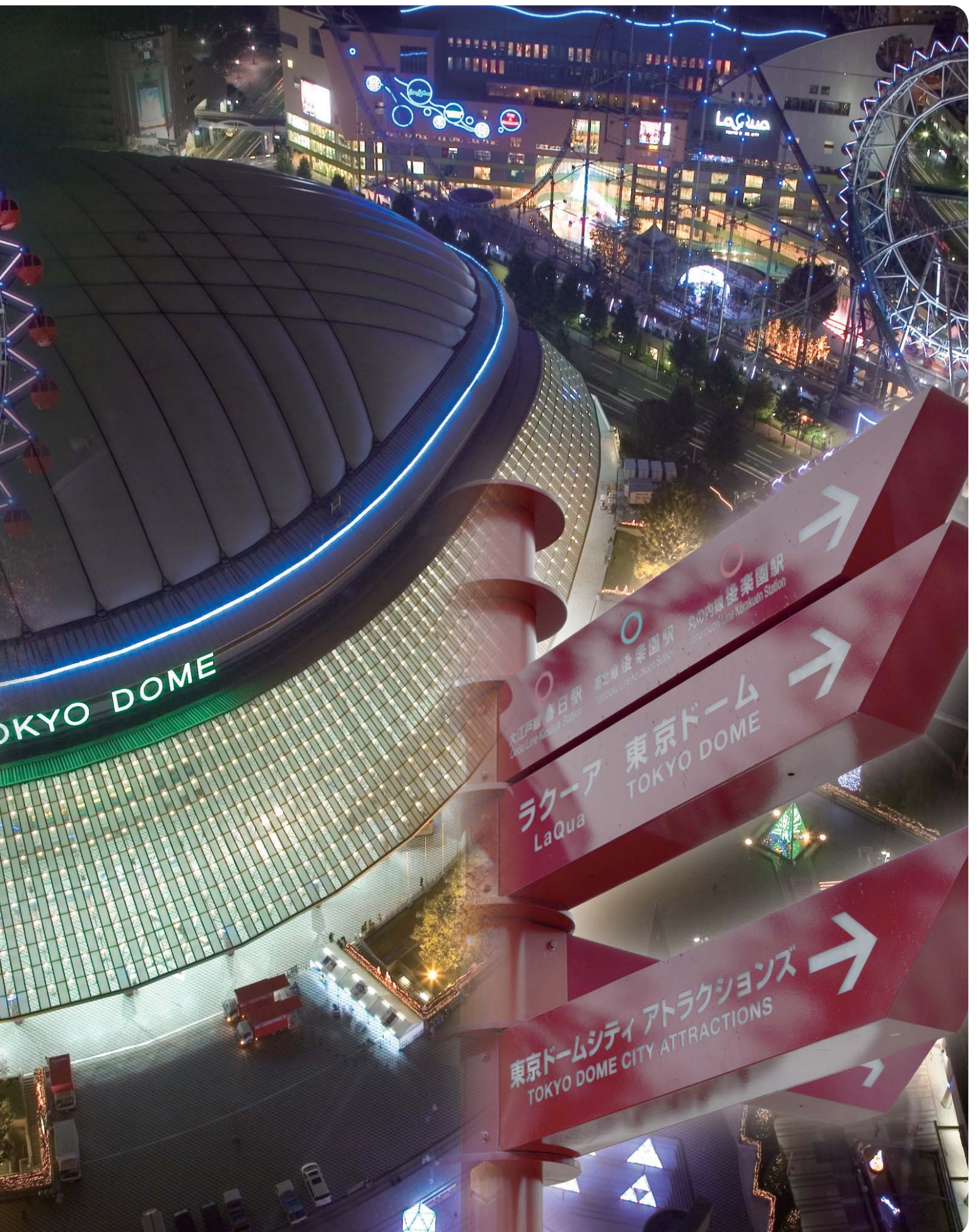
|     | 2010年1月期 | 2011年1月期 | 2012年1月期 |
|-----|----------|----------|----------|
| 売上高 | 578      | 793      | 700      |

いかがでしたか？

お客様の絆と感動が、共に深まること。

それは東京ドームグループ全スタッフの願いです。





## 東京ドームグループ ビジネスレポート2012について

次ページ以降の連結財務データは、金融商品取引法第24条第1項に基づき財務省に提出いたしました第102期(自2011年2月1日 至2012年1月31日)有価証券報告書に基づき作成しております。

本資料が、みなさまにとりまして当社をご理解いただく一助となれば幸いに存じます。

## 連結財務ハイライト

株式会社東京ドーム及び連結対象子会社  
1月31日で終了した1年間

単位：百万円

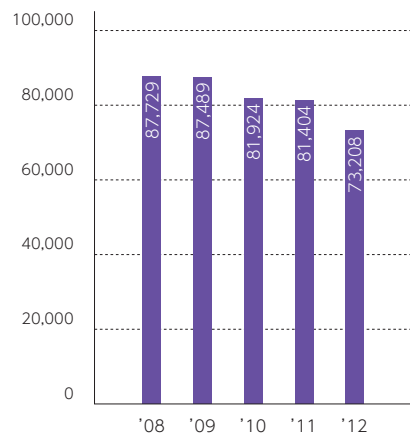
|           | 2008     | 2009     | 2010     | 2011     | 2012            |
|-----------|----------|----------|----------|----------|-----------------|
| 売上高       | ¥ 87,729 | ¥ 87,489 | ¥ 81,924 | ¥ 81,404 | ¥ <b>73,208</b> |
| 営業利益      | 13,247   | 12,455   | 8,398    | 8,663    | <b>5,248</b>    |
| 当期純利益(損失) | 7,811    | 6,676    | △1,004   | △873     | <b>362</b>      |
| 資産合計      | 319,841  | 314,833  | 307,992  | 302,864  | <b>297,848</b>  |
| 純資産合計     | 47,072   | 49,186   | 51,501   | 49,042   | <b>52,427</b>   |

単位：円

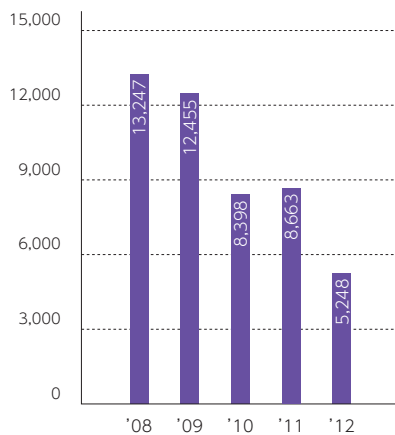
|              | 2008    | 2009    | 2010    | 2011    | 2012          |
|--------------|---------|---------|---------|---------|---------------|
| 1株当たり情報：     |         |         |         |         |               |
| 当期純利益(損失)(注) | ¥ 41.57 | ¥ 35.11 | ¥ △5.27 | ¥ △4.58 | ¥ <b>1.90</b> |
| 配当金          | 3       | 5       | 5       | —       | —             |

注：1株当たりの当期純利益(損失)は各年度の発行済み普通株数の加重平均値をベースに算出しています。

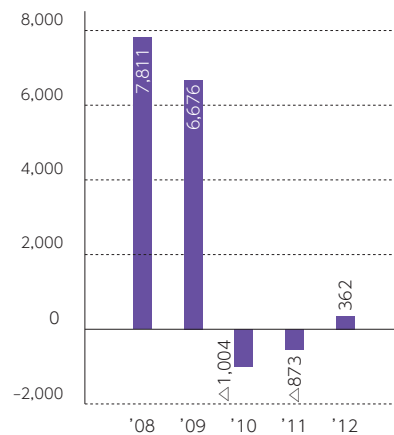
売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



当期純利益(損失) (百万円)



## 2012年1月期の財務状況

### 2012年1月期の連結業績(2011年2月1日～2012年1月31日)

(単位：百万円)

|                  | 2011年1月期 | 2012年1月期        | 増減額     |
|------------------|----------|-----------------|---------|
| 資産合計             | ¥302,864 | <b>¥297,848</b> | ¥△5,015 |
| 負債合計             | 253,821  | <b>245,421</b>  | △8,400  |
| 純資産合計            | 49,042   | <b>52,427</b>   | 3,385   |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 14,818   | <b>8,497</b>    | △6,320  |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △10,112  | <b>△8,466</b>   | 1,646   |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △4,519   | <b>△3,373</b>   | 1,146   |
| 現金及び現金同等物の期末残高   | 13,356   | <b>10,014</b>   | △3,342  |

## 2012年1月31日現在の資産、負債、純資産の概況

当期末の資産合計は、5,015百万円減少(前期末比1.7%減)し、297,848百万円となりました。この減少の要因は、有利子負債の削減に伴う現金及び預金の減少と、株式市場の市況低迷による投資有価証券の減少等によるものです。

負債については、負債合計が8,400百万円減少(前期末比3.3%減)し、245,421百万円となりました。当期が初年度となった中期経営計画「起動」においても、引き続き、有利子負債削減を目標としています。当期においては、新たな発行により社債が増加しましたが、長期借入金が増加した結果、有利子負債全体では前期末比1,795百万円の減少となりました。

純資産については、前期末比3,385百万円増加し、52,427百万円となり、自己資本比率は、前期末の16.2%から当期末17.6%へと1.4ポイント改善しました。この主な要因は、税制改正により、土地再評価差額金が増加したことによります。

## キャッシュ・フローの状況

当期末における連結ベースの現金及び現金同等物は、以下の要因により、前期末に比べ3,342百万円(25.0%)減少し、10,014百万円となりました。

### ・営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、東日本大震災による消費の冷え込みや東京ドームシティ アトラクションズでの事故に伴う一部営業休止等の影響により、8,497百万円となり、前期比6,320百万円(42.7%)の減少となりました。

### ・投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形及び無形固定資産の取得等により、△8,466百万円となり、前期比1,646百万円の増加となりました。

### ・財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローの減少により有利子負債の削減額が縮小したため、△3,373百万円となり、前期比1,146百万円の増加となりました。

## 2013年1月期の見通し

### 2013年1月期の業績見通し(2012年3月15日公表)

(単位：百万円)

|          | 売上高     | 経常利益   | 当期純利益   | 1株当たり<br>当期純利益 (円) |
|----------|---------|--------|---------|--------------------|
| 2013年1月期 | ¥78,200 | ¥5,900 | ¥4,500  | ¥23.61             |
| 2012年1月期 | 73,208  | 2,336  | 362     | 1.90               |
| 増減率 (%)  | 6.8     | 152.5  | 1,142.8 | 1,142.6            |

2013年1月期の業績については、東京ドームにおけるMLB開幕戦や都市対抗野球の開催などが見込まれるほか、アトラクションが順次、営業を再開したことで増収増益となる見通しです。また、震災以降、業績の低迷していた熱海後樂園ホテルや東京ドームホテル札幌においても稼働率が回復し、業績も改善する見通しです。一方、松戸競輪場では、記念競輪等の大型レースの開催が減少することにより、減収減益となる見通しです。この結果、売上高は78,200百万円(前期比6.8%増)、営業利益は8,600百万円(同63.8%増)、経常利益は5,900百万円(同152.5%増)、当期純利益は4,500百万円となる見通しです。

#### 業績予想に関する留意事項

当ビジネスレポートに掲載されている2013年1月期および将来に関する記述は、当社および当社グループが現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいていますが、リスクや不確実性を含んでいます。よって、実際の業績は様々な要因により、記述されている業績予想とは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要因には、当社および当社グループの事業を取り巻く経済環境、市場動向、為替レートの変動などが含まれています。

# 連結5年間の要約財務データ

株式会社東京ドーム及び連結対象子会社  
1月31日で終了した1年間

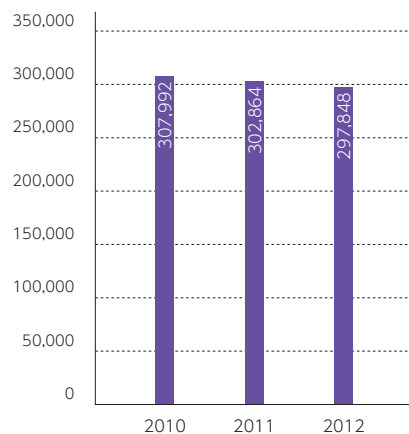
連結5年間の要約財務データ

単位：百万円

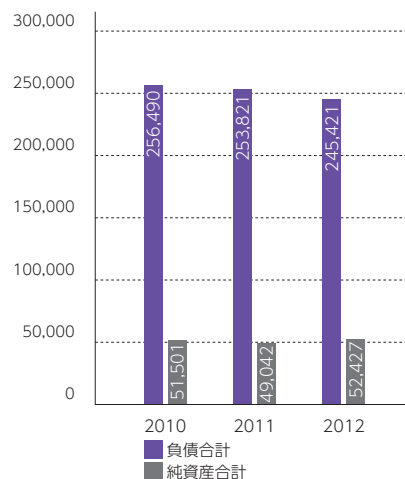
|                       | 2008      | 2009      | 2010      | 2011      | 2012             |
|-----------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------------|
| <b>貸借対照表データ</b>       |           |           |           |           |                  |
| 資産合計                  | ¥ 319,841 | ¥ 314,833 | ¥ 307,992 | ¥ 302,864 | ¥ <b>297,848</b> |
| 流動資産合計                | 23,419    | 21,660    | 20,002    | 21,937    | <b>18,752</b>    |
| 固定資産合計                | 295,726   | 292,304   | 287,054   | 279,646   | <b>277,553</b>   |
| 繰延資産合計                | 695       | 868       | 935       | 1,280     | <b>1,543</b>     |
| 流動負債合計                | 86,114    | 83,256    | 86,536    | 76,242    | <b>80,558</b>    |
| 固定負債合計                | 186,654   | 182,389   | 169,953   | 177,579   | <b>164,862</b>   |
| 純資産合計                 | 47,072    | 49,186    | 51,501    | 49,042    | <b>52,427</b>    |
| <b>損益計算書データ</b>       |           |           |           |           |                  |
| 売上高                   | ¥ 87,729  | ¥ 87,489  | ¥ 81,924  | ¥ 81,404  | ¥ <b>73,208</b>  |
| 売上原価                  | 67,932    | 68,558    | 67,094    | 66,425    | <b>62,016</b>    |
| 一般管理費                 | 6,549     | 6,475     | 6,432     | 6,315     | <b>5,943</b>     |
| 営業利益                  | 13,247    | 12,455    | 8,398     | 8,663     | <b>5,248</b>     |
| 法人税等合計                | 2,804     | 119       | 2,990     | 3,521     | <b>549</b>       |
| 当期純利益 (損失)            | 7,811     | 6,676     | △1,004    | △873      | <b>362</b>       |
| <b>1株当たり情報 (単位：円)</b> |           |           |           |           |                  |
| 1株当たり当期純利益 (損失) (注)   | ¥ 41.57   | ¥ 35.11   | ¥ △5.27   | ¥ △4.58   | ¥ <b>1.90</b>    |
| 1株当たり配当額              | 3         | 5         | 5         | —         | —                |
| 1株当たり純資産              | 248.24    | 257.96    | 270.20    | 257.41    | <b>275.10</b>    |
| <b>財務流動性</b>          |           |           |           |           |                  |
| 運転資本                  | ¥ △62,695 | ¥ △61,596 | ¥ △66,534 | ¥ △54,305 | ¥ <b>△61,806</b> |
| 株主資本比率                | 14.7%     | 15.6%     | 16.7%     | 16.2%     | <b>17.6%</b>     |
| 流動比率                  | 27.2%     | 26.0%     | 23.1%     | 28.8%     | <b>23.3%</b>     |
| <b>その他</b>            |           |           |           |           |                  |
| 設備投資額                 | ¥ 6,840   | ¥ 11,093  | ¥ 8,312   | ¥ 9,423   | ¥ <b>8,804</b>   |
| 売上高に対する設備投資額の比率       | 7.8%      | 12.7%     | 10.1%     | 11.6%     | <b>12.0%</b>     |

注：1株当たりの当期純利益(損失)は各年度の発行済み普通株数の加重平均値をベースに算出しています。

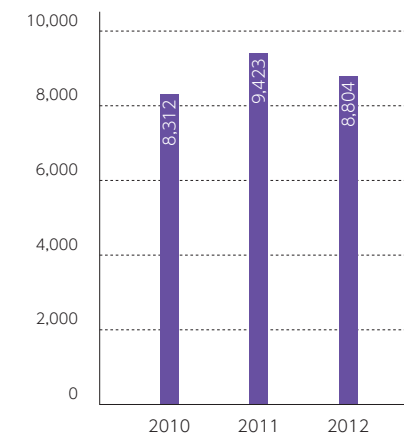
資産合計 (百万円)



負債合計・純資産合計 (百万円)



設備投資額 (百万円)



# 個別5年間の要約財務データ

株式会社東京ドーム  
1月31日で終了した1年間

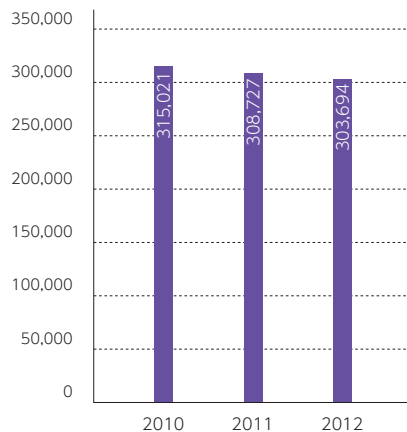
個別5年間の要約財務データ

単位:百万円

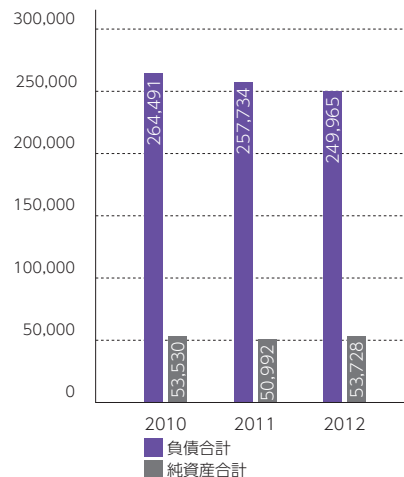
|                      | 2008      | 2009      | 2010      | 2011      | 2012             |
|----------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------------|
| <b>貸借対照表データ</b>      |           |           |           |           |                  |
| 資産合計                 | ¥ 320,883 | ¥ 319,184 | ¥ 315,021 | ¥ 308,727 | ¥ <b>303,694</b> |
| 流動資産合計               | 11,973    | 12,369    | 12,482    | 12,260    | <b>11,375</b>    |
| 固定資産合計               | 308,213   | 305,945   | 301,604   | 295,186   | <b>290,775</b>   |
| 繰延資産合計               | 695       | 868       | 935       | 1,280     | <b>1,543</b>     |
| 流動負債合計               | 81,961    | 79,729    | 84,083    | 73,604    | <b>78,187</b>    |
| 固定負債合計               | 183,975   | 185,631   | 177,408   | 184,130   | <b>171,778</b>   |
| 純資産合計                | 54,946    | 53,823    | 53,530    | 50,992    | <b>53,728</b>    |
| <b>損益計算書データ</b>      |           |           |           |           |                  |
| 売上高                  | ¥ 58,519  | ¥ 59,893  | ¥ 56,985  | ¥ 55,970  | ¥ <b>51,222</b>  |
| 売上原価                 | 42,414    | 44,442    | 43,715    | 43,040    | <b>40,947</b>    |
| 一般管理費                | 4,617     | 4,581     | 4,620     | 4,465     | <b>4,237</b>     |
| 営業利益                 | 11,487    | 10,869    | 8,649     | 8,464     | <b>6,037</b>     |
| 法人税等合計               | 2,355     | △535      | 2,686     | 3,525     | <b>198</b>       |
| 当期純利益(損失)            | 4,417     | 4,099     | △4,348    | △1,058    | <b>△163</b>      |
| <b>1株当たり情報(単位:円)</b> |           |           |           |           |                  |
| 1株当たり当期純利益(損失)(注)    | ¥ 23.10   | ¥ 21.45   | ¥ △22.77  | ¥ △5.55   | ¥ <b>△0.86</b>   |
| 1株当たり配当額             | 3         | 5         | 5         | —         | <b>—</b>         |
| 1株当たり純資産             | 287.40    | 281.79    | 280.36    | 267.18    | <b>281.57</b>    |
| <b>財務流動性</b>         |           |           |           |           |                  |
| 運転資本                 | ¥ △69,987 | ¥ △67,359 | ¥ △71,601 | ¥ △61,344 | ¥ <b>△66,811</b> |
| 株主資本比率               | 17.1%     | 16.9%     | 17.0%     | 16.5%     | <b>17.7%</b>     |
| 流動比率                 | 14.6%     | 15.5%     | 14.8%     | 16.7%     | <b>14.5%</b>     |

注: 1株当たりの当期純利益(損失)は各年度の発行済み普通株数の加重平均値をベースに算出しています。

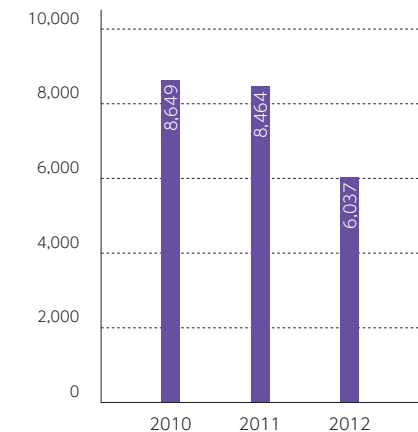
資産合計(百万円)



負債合計・純資産合計(百万円)



営業利益(百万円)



## 会社概要

(2012年4月30日現在)

|                |   |  |
|----------------|---|--|
| 商号             | 株式会社東京ドーム   |  |
| 本社             | 〒112-8575 東京都文京区後楽1丁目3番61号                                      |  |
| 電話             | 03-3811-2111 (代表)   |  |
| URL            | <a href="http://www.tokyo-dome.jp">http://www.tokyo-dome.jp</a> |  |
| 設立             | 1936年12月25日   |  |
| 代表者            | 代表取締役社長 執行役員 久代 信次  |  |
| 資本金            | 20億3千8百万円   |  |
| 従業員数           | 828名  |  |
| 発行済株式総数        | 191,714,840株  |  |
| 主な連結子会社および関連会社 | 株式会社東京ドームホテル<br>株式会社札幌後楽園ホテル<br>松戸公産株式会社                        | 株式会社東京ドーム・リゾートオペレーションズ<br>株式会社東京ドームファシリティーズ<br>株式会社東京ドームスポーツ |
| 上場証券取引所        | 東京証券取引所第1部  |  |
| 株主名簿管理人        | 〒100-8233 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号<br>三井住友信託銀行株式会社                     |  |
| 定時株主総会         | 毎年4月、東京にて開催   |  |

# セグメント別関連会社一覧

(2012年1月31日現在)

・持分法適用関連会社3社(※)  
・非連結子会社2社

|            |                     |  |
|------------|---------------------|--|
| 東京ドームシティ事業 | 東京ドームホテル            | (株) 東京ドームホテル                                       |
|            | スパ・フィットネス           | (株) 東京ドームスポーツ                                      |
|            | その他                 | (株) 東京ドームファシリティーズ                                  |
|            |                     | 後樂園事業(株)   |
| 流通事業       | —                   |  |
| 不動産事業      | 賃貸等不動産の管理           | 後樂園不動産(株)  |
|            |                     | 松戸公産(株)  |
|            |                     | (株) 後樂園フードサービス                                     |
|            |                     | (株) 水戸後樂園  |
| 熱海事業       | 熱海後樂園ホテル等           | (株) 東京ドーム・リゾートオペレーションズ                             |
| 札幌事業       | 東京ドームホテル札幌          | (株) 札幌後樂園ホテル                                       |
| 競輪事業       | 松戸競輪場等              | 松戸公産(株)  |
|            |                     | 花月園観光(株) ※   |
| その他        | スポーツ施設運営受託等         | (株) 東京ドームスポーツ                                      |
|            | 立体駐車場の設計・施工・運営管理    | 東和工建(株)  |
|            | 有価証券の保有・管理          | オリンピア興業(株)   |
|            | その他                 | 進商事(株)   |
|            |                     | (株) 後樂園ロコモティブ                                      |
|            | ビデオソフト制作・有線テレビジョン放送 | 東京ケーブルネットワーク(株) ※                                  |
|            | ゴルフ場                | TERREY HILLS GOLF AND COUNTRY CLUB HOLDINGS LTD. ※ |

(株) アタミ・ロープウェイ  
(株) 東京ドームマーチャндаイジング

発行可能株式総数 396,000,000株

発行済株式総数 190,821,854株  
(自己株式892,986株を除く)

株主数 20,118名  
(自己株式1名を除く)

大株主(上位10名)

| 株主名                       | 当社への出資状況 |           |
|---------------------------|----------|-----------|
|                           | 持株数(千株)  | 持株比率(%)※1 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 18,126   | 9.49      |
| 富国生命保険相互会社                | 8,553    | 4.48      |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)   | 7,253    | 3.80      |
| 株式会社みずほコーポレート銀行           | 6,753    | 3.53      |
| 株式会社竹中工務店                 | 6,686    | 3.50      |
| 日本興亜損害保険株式会社              | 4,377    | 2.29      |
| 株式会社みずほ銀行                 | 3,610    | 1.89      |
| 日本生命保険相互会社                | 3,261    | 1.70      |
| 中央三井信託銀行株式会社 ※2           | 3,156    | 1.65      |
| 朝日生命保険相互会社                | 3,111    | 1.63      |

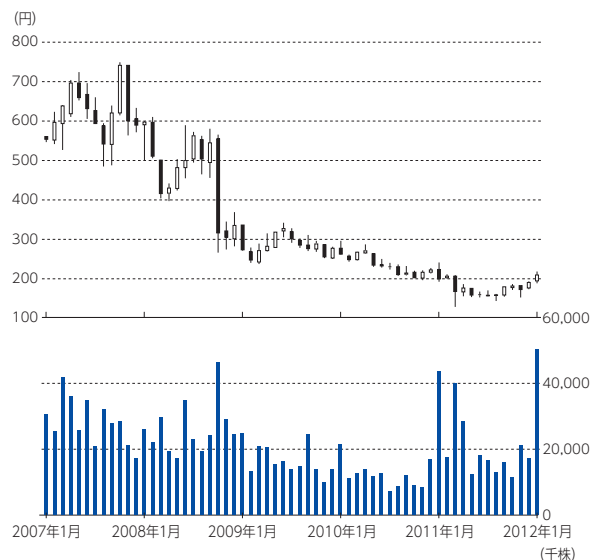
※1 持株比率は、自己株式(892,986株)を控除して計算し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

※2 中央三井信託銀行株式会社は、住友信託銀行株式会社、中央三井アセット信託銀行株式会社と平成24年4月1日をもって合併し、「三井住友信託銀行株式会社」となりました。

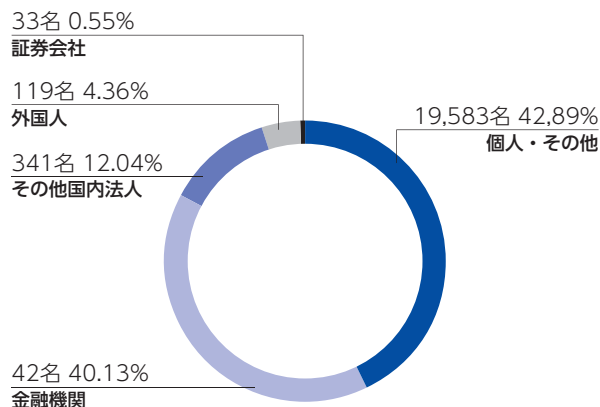
自己株式の取得、処分等及び保有

|                        |            |
|------------------------|------------|
| 1. 取得株式                |            |
| 普通株式                   | 34,146 株   |
| 取得価額の総額                | 5 百万円      |
| 2. 処分・消却株式             | 該当事項はありません |
| 3. 失効手続をした株式           | 該当事項はありません |
| 4. 決算期における保有株式<br>普通株式 | 892,986 株  |

株価の推移・株式売買高の推移



持株比率(%)



(注) 持株比率は自己株式を控除して計算し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

|            |  |
|------------|--|
| 1936/12/25 | プロ野球専用球場建設のため資本金200万円にて設立  |
| 1937/9     | 野球場竣工  |
| 1942/9     | 連結子会社後楽園不動産(株)設立   |
| 1949/5     | 東京証券取引所に株式上場   |
| 1949/7     | 大阪証券取引所に株式上場   |
| 1949/10    | 競輪場竣工  |
| 1955/7     | 後楽園ゆうえんち開業   |
| 1959/12    | 石打後楽園スキー場(現・舞子後楽園スキー場)開業   |
| 1962/1~4   | ボウリング会館(サウナ、ホール、飲食店など)開業(現・青いビル)   |
| 1962/2     | 連結子会社(株)後楽園フードサービス設立   |
| 1965/8     | 熱海後楽園ホテル開業   |
| 1971/9     | 連結子会社(株)後楽園ロコモティブ設立  |
| 1972/5     | 連結子会社(株)北海道後楽園設立   |
| 1973/3     | 都営競輪廃止   |
| 1973/4     | 黄色いビル(場外馬券売場、ローラースケート場、ボウリング場など)開業   |
| 1973/9     | 札幌後楽園カントリークラブ開業  |
| 1977/11    | 黄色いビル別館(場外馬券売場)開業  |
| 1980/2     | 連結子会社(株)後楽園ファイナンス設立  |
| 1984/7     | 連結子会社(株)熱海後楽園設立  |
| 1985/10    | 連結子会社(株)大阪後楽園ホテル設立   |
| 1986/10    | 大阪後楽園ホテル開業   |
| 1987/2     | 連結子会社(株)札幌後楽園ホテル設立   |
| 1987/3     | 連結子会社(株)西日本後楽園買収   |
| 1988/3     | 東京ドーム開業  |
| 1988/6     | 札幌後楽園ホテル開業   |
| 1989/5     | 馬頭後楽園ゴルフコース&ホテル開業  |
| 1990/9     | (株)後楽園スタジアムを(株)東京ドームに社名変更  |
| 1990/12    | ビッグエッグプラザ1、プリズムホール開業   |
| 1992/7     | ビッグエッグプラザ2、ジオポリス(屋内遊園地)開業  |
| 1995/4     | 連結子会社(株)水戸後楽園買収  |
| 1996/5     | 水戸後楽園カントリークラブ開業  |
| 1997/2     | 連結子会社(株)北海道後楽園観光開発設立   |
| 1999/2     | 連結子会社(株)東京ドームホテル設立   |
| 2000/3     | 連結子会社(株)東京ドーム・リゾートオペレーションズ設立   |
| 2000/6     | 東京ドームホテル開業 市原後楽園ゴルフ&スポーツ開業   |
| 2001/2     | 大阪後楽園ホテル閉鎖   |
| 2002/1     | 連結子会社(株)大阪後楽園ホテル清算終了   |
| 2002/7     | 連結子会社(株)熱海後楽園清算終了  |
| 2003/5     | ラクア開業  |
| 2004/12    | 松戸公産(株)を完全子会社化   |
| 2006/10    | 持分法適用関連会社理想ゴルフサービス(株)清算終了  |
| 2006/11    | 連結子会社(株)後楽園ファイナンスの全株式を譲渡   |
| 2006/11    | 連結子会社サンエスファクタリング(株)清算終了  |
| 2007/5     | 札幌後楽園カントリークラブ、舞子後楽園スキー場&ホテル、馬頭後楽園ゴルフコース&ホテル、水戸後楽園カントリークラブ、市原後楽園ゴルフ&スポーツ、城島後楽園ゆうえんち/ホテル/カントリークラブを事業譲渡 |
| 2008/3     | ミーツポート開業   |
| 2009/4     | 屋内遊園地「ジオポリス」リニューアルオープン   |

株式会社 東京ドーム

〒112-8575 東京都文京区後楽1丁目3番61号

TEL: 03-3811-2111 (代表)

URL: <http://www.tokyo-dome.jp>



この冊子は「FSC認証紙」と、揮発性有機溶剤を含まない「VOCゼロ型インキ」を使用し、印刷はアルカリ性現像廃液を出さず、イソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な「水なし印刷方式」を採用しています。